

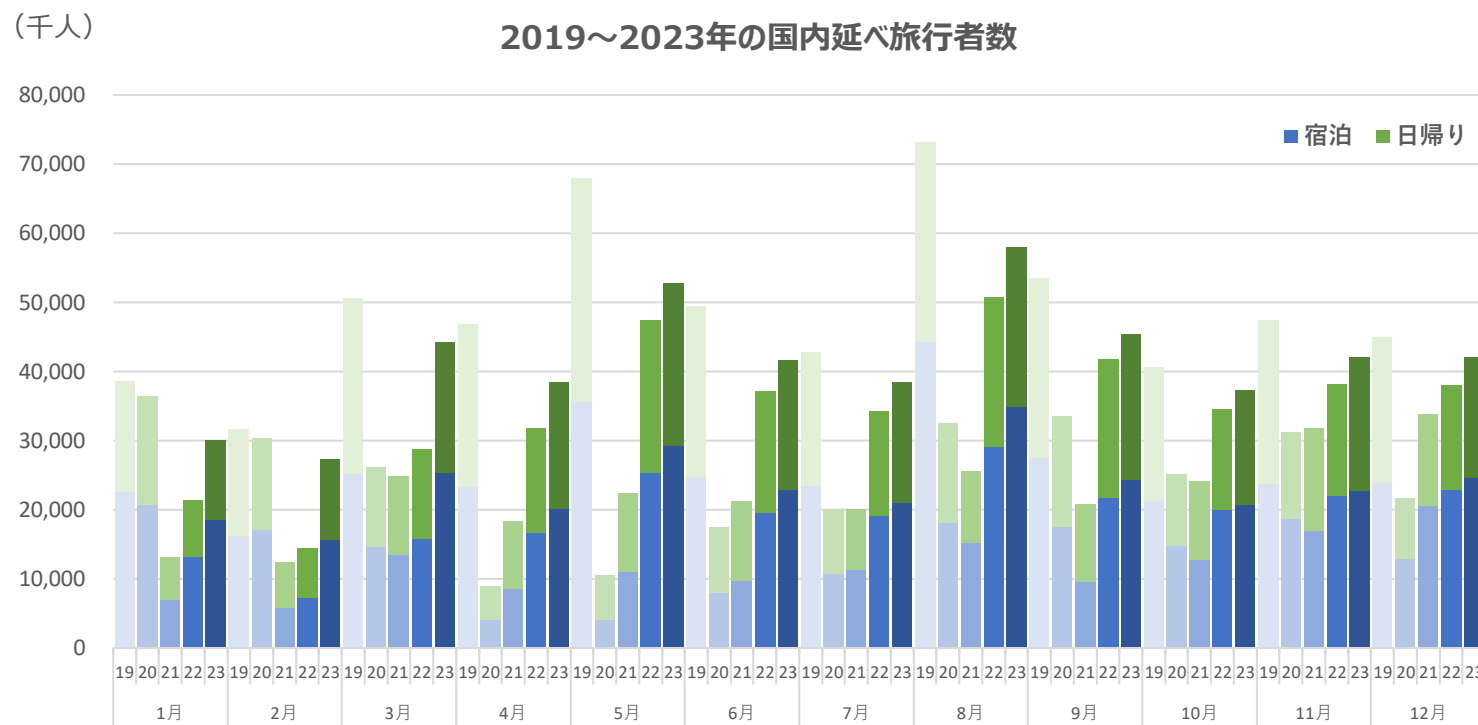


2023年の国立公園の 利用動向等について

1. 国立公園における訪日外国人利用者数等 （国立公園満喫プロジェクトの成果指標）

1.1 国内延べ旅行者数

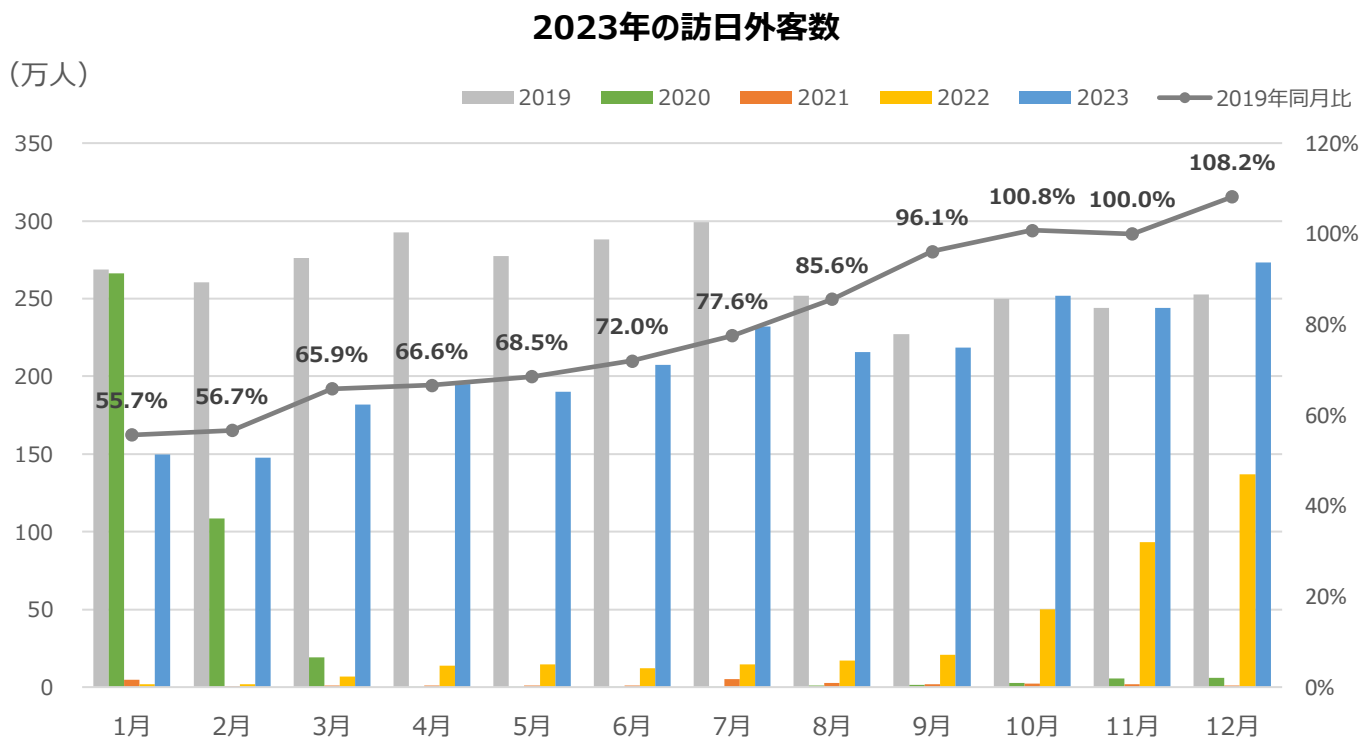
- **2023年の国内延べ旅行者数（観光・レク、帰省・知人訪問等、出張・業務）は4億9,756万人**
（10-12月は速報）
- 新型コロナウイルス感染症影響前の**2019年と比較すると、85%の回復**となった。宿泊については、2019年比で3・12月は10割を超え、2・6・7・10・11月は9割を超える回復を見せた（2019年比日帰り79.0% 宿泊89.9%）



※：10-12月は、速報値を使用

1.2 訪日外国人客数

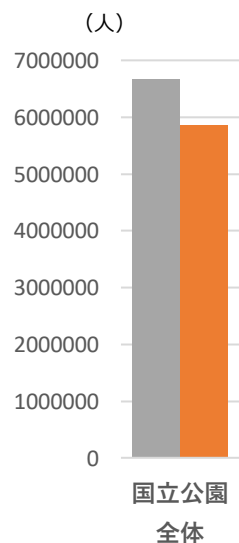
- **2023年の訪日外客数は2,506万6千人となり、前年の383万2千人より大幅に回復した**
- 新型コロナウイルス感染症影響前の**2019年と比較すると、年間で78.6%の回復**となり、**9月以降は2019年同月と同水準**にまで回復した



1.3 国立公園における訪日外国人利用者数

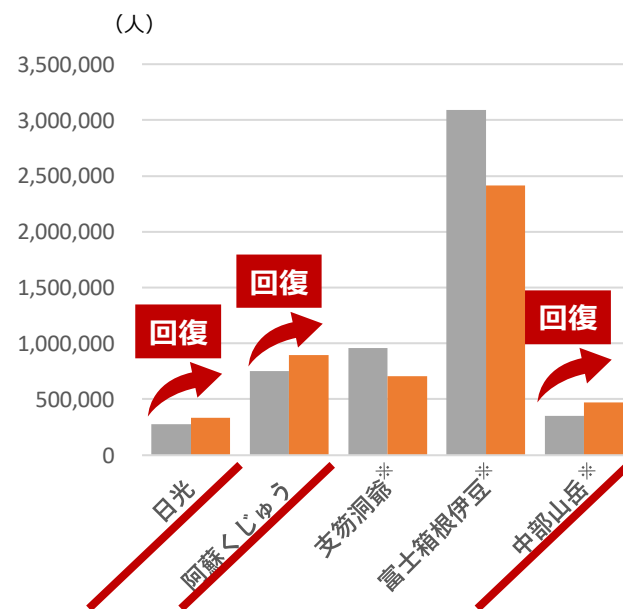
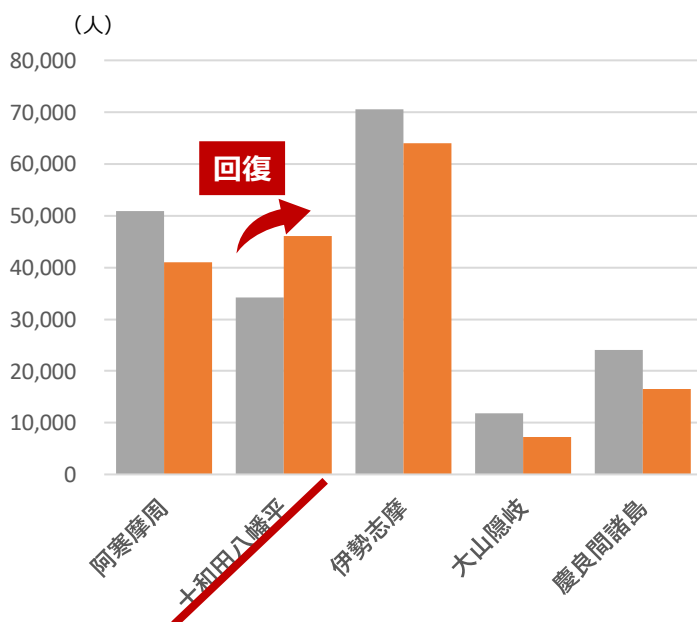
- 2023年における国立公園全体の訪日外国人の実利用者数は約585万人と、2019年の9割程度の水準となった
- 先行8公園及び準ずる3公園については、十和田八幡平や阿蘇くじゅうなど2019年の値を上回るほど回復している公園もあるものの、全体の傾向としては下回る公園も多く回復には至っていない

国立公園全体の訪日外国人
の実利用者数
(2023年・2019年)



国立公園の訪日外国人の利用者数（2023年・2019年）

- 先行8公園+準ずる3公園 -

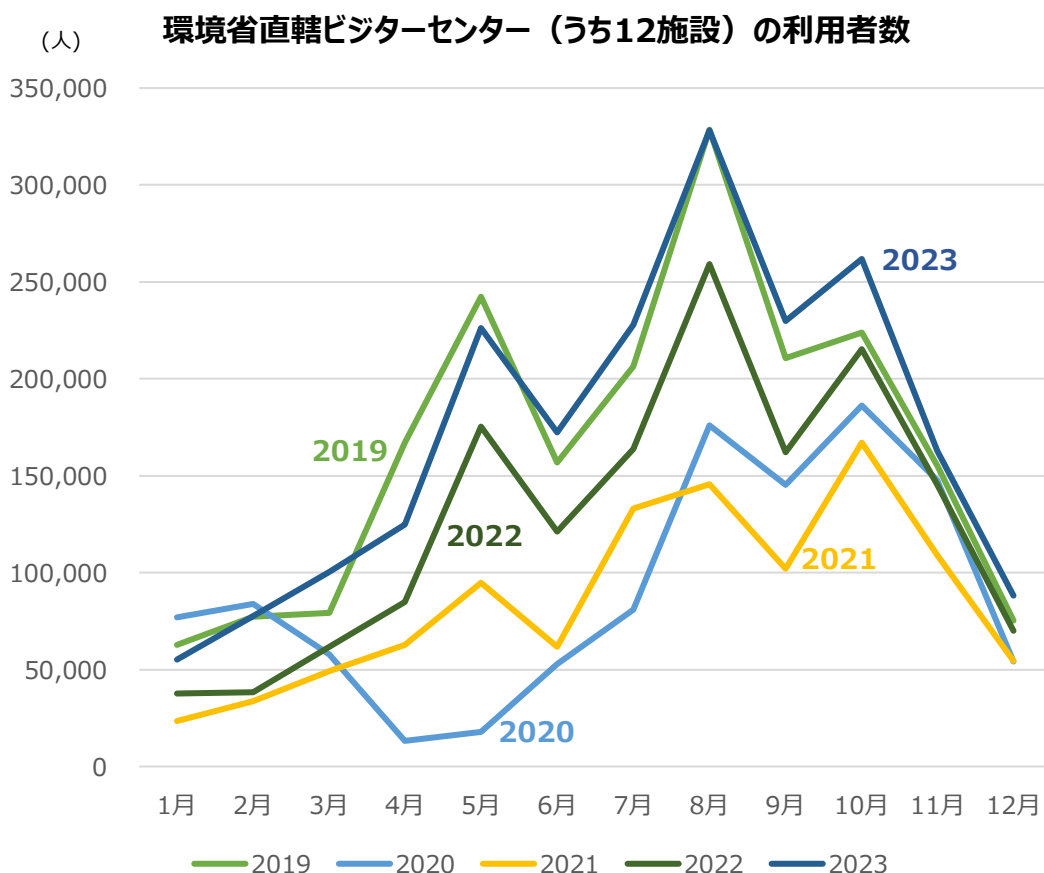


■ 2019 ■ 2023

※：準ずる3公園

1.4 主なビジターセンター利用者数

- 全国の環境省直轄ビジターセンターのうち、利用者数の多い12施設の利用者数は205万5千人。新型コロナウイルス感染症の影響前である2019年の198万6千人をおよそ7万人上回った
- 一方、各ビジターセンター別に比較すると、回復には大きな差があることが見受けられる



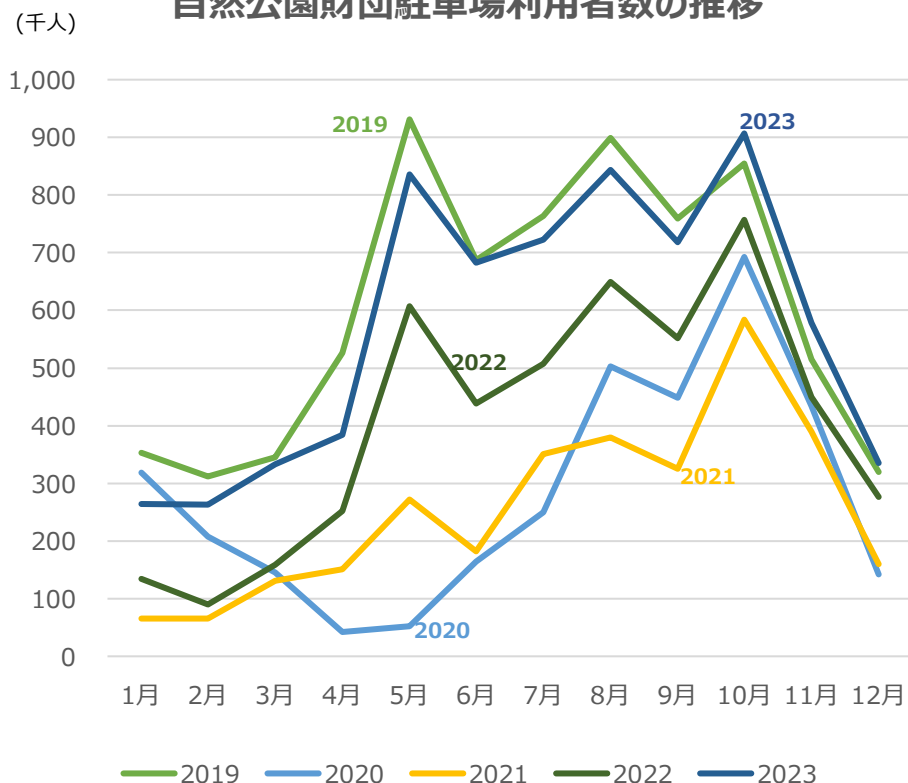
ビジターセンター別の利用者数（人）

施設名	2023年	2019年比
支笏湖ビジターセンター	322,236	+47,482
知床世界遺産センター	90,193	-35,830
裏磐梯ビジターセンター	40,409	-43,291
田貫湖ふれあい自然塾	55,617	-47,028
上高地インフォメーションセンター	307,302	+36,835
上高地ビジターセンター	157,539	+29,280
横山ビジターセンター	38,230	-30,494
鳥取砂丘ビジターセンター	304,001	+19,841
大山ナショナルパークセンター	81,975	-19,377
阿蘇山上ビジターセンター	470,051	2019年3月オープン
長者原ビジターセンター	132,130	+3,320
竹富島ビジターセンター	55,732	-36,478

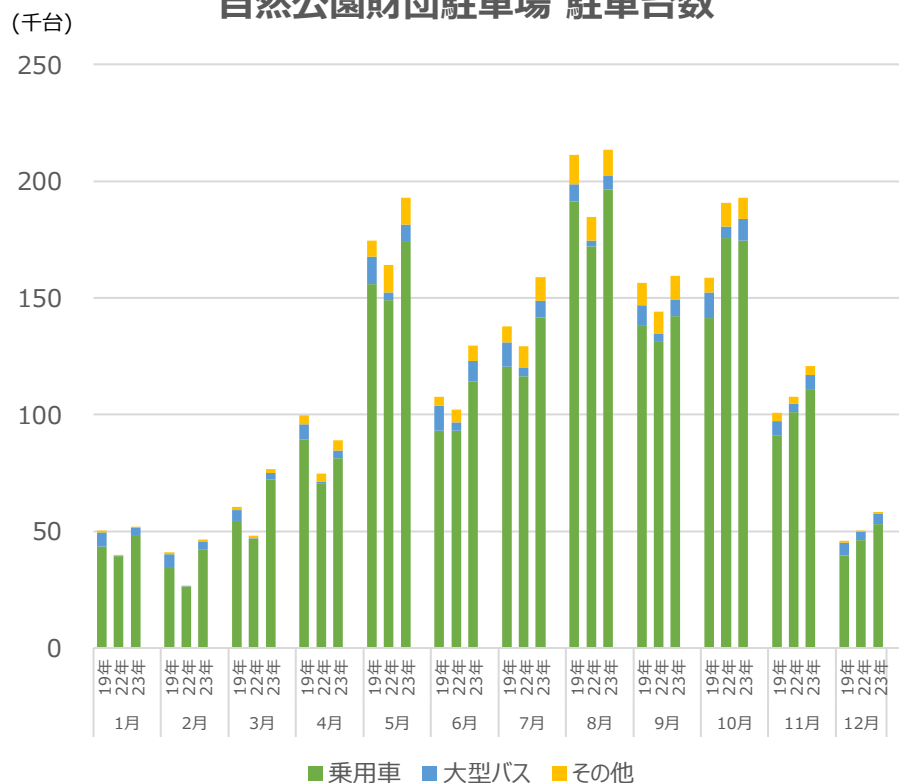
1.5 自然公園財団駐車場利用状況

- 全国の自然公園財団の管理する**駐車場の利用者数は、686万7千人**。新型コロナウイルス感染症の影響前の2019年と比較すると利用者数は回復傾向にあり、10月以降は2019年を上回る

自然公園財団駐車場利用者数の推移



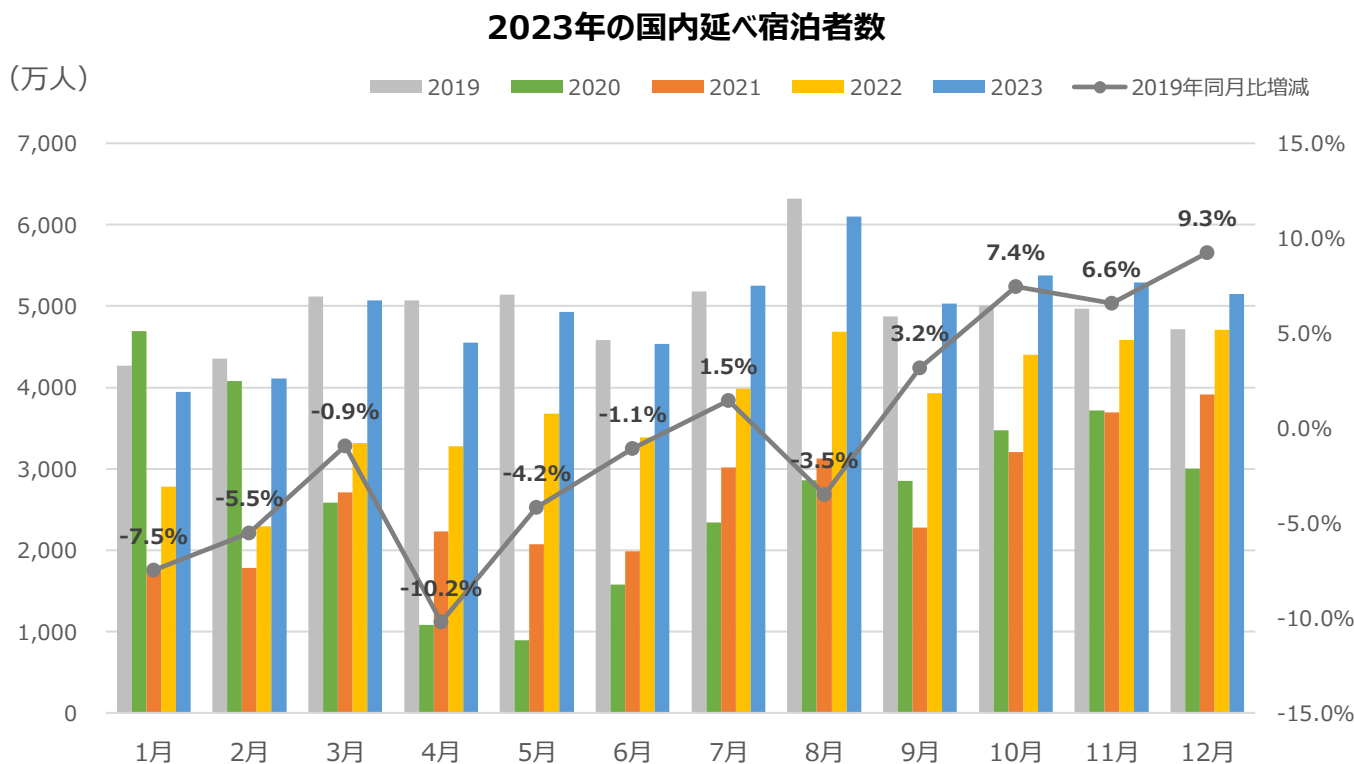
自然公園財団駐車場 駐車台数



2. 国立公園における日本人宿泊者数等 (国立公園満喫プロジェクトの成果指標)

2.1 日本全体の宿泊者数

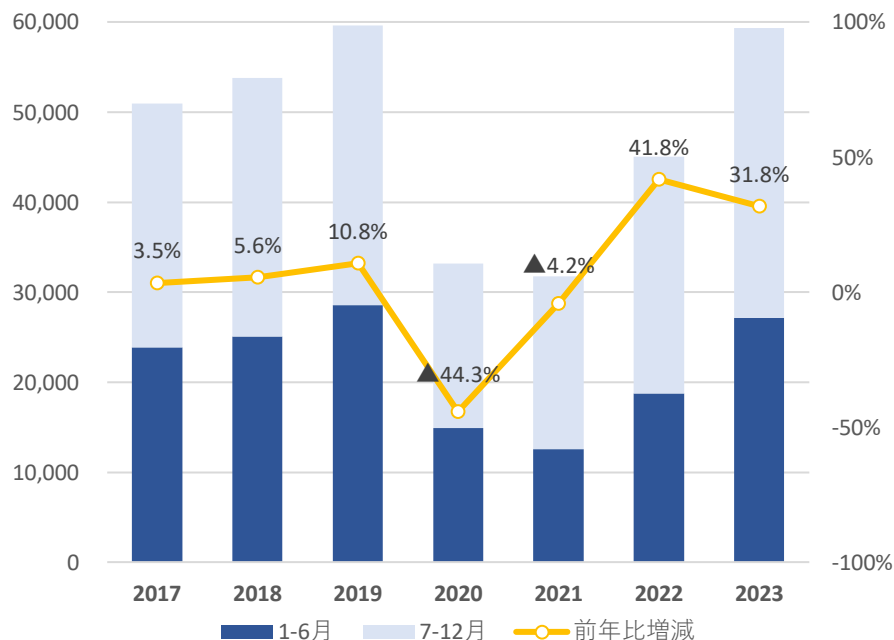
- **2023年の国内延べ宿泊者数（日本人及び外国人）は5億9,350万人（速報）であった**
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により大きく落ち込んだ2021年の1.87倍となり、感染拡大前の**2019年比では99.6%とほぼ同水準まで回復した**
- 10月以降は、2019年同月の国内延べ宿泊者数を上回り、増加傾向となっている



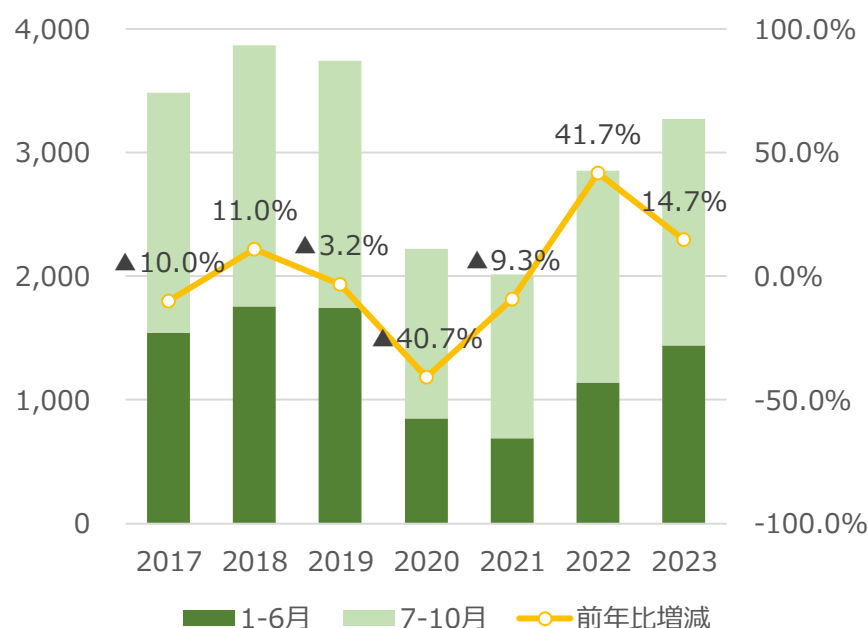
2.2 国立公園における宿泊者数

- 2023年の国立公園内の延べ宿泊者数（日本人及び外国人）は、**3,271万人**であった
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により大きく落ち込んだ2021年の1.63倍となり、感染拡大前の**2019年比**では**87.4%まで回復**した

全国の延べ宿泊者数
(単位：万人)



国立公園区域内の延べ宿泊者数
(単位：万人)



※国立公園内の宿泊者数は、観光庁「宿泊旅行統計調査」の調査票情報を利用して推計。
 ※2017年～2022年は、「宿泊旅行統計調査」の結果の確定値、2023年は同調査結果の速報値を使用。

2.3 国立公園における宿泊者数

- 2023年の宿泊者数（日本人及び外国人）は、**複数の公園で2019年水準への回復**が見られた。
特に、**やんばる、南アルプス、知床、などでは回復が速く、2019年を上回る水準**となっている
- 一方で慶良間諸島、白山、大雪山などでは回復が鈍く、2019年比4割前後の水準となっている

2019年、2022年および2023年における各国立公園区域内の延べ宿泊者数

公園名	2019年 (確定値)	2022年 (確定値)	2023年 (速報値)	2022年比 増減	2019年比 増減
1 利尻礼文サロベツ	-	-	-	-	-
2 知床	12,361	14,412	15,022	4.2%	21.5%
3 阿寒摩周	828,568	431,701	547,629	26.9%	-33.9%
4 釧路湿原	966	-	-	-	-
5 大雪山	775,527	199,519	366,104	83.5%	-52.8%
6 支笏洞爺	3,631,085	2,103,985	2,545,545	21.0%	-29.9%
7 十和田八幡平	556,324	516,169	568,509	10.1%	2.2%
8 三陸復興	123,375	122,973	137,602	11.9%	11.5%
9 磐梯朝日	861,876	661,957	837,573	26.5%	-2.8%
10 日光	4,682,377	3,904,635	4,354,566	11.5%	-7.0%
11 尾瀬	-	-	-	-	-
12 上信越高原	3,005,606	1,977,045	2,617,913	32.4%	-12.9%
13 妙高戸隠連山	375,971	303,492	325,276	7.2%	-13.5%
14 秩父多摩甲斐	146,480	164,279	141,048	-14.1%	-3.7%
15 小笠原	-	-	-	-	-
16 富士箱根伊豆	11,370,294	9,731,703	10,682,243	9.8%	-6.1%
17 中部山岳	1,033,422	704,703	746,139	5.9%	-27.8%

公園名	2019年 (確定値)	2022年 (確定値)	2023年 (速報値)	2022年比 増減	2019年比 増減
18 白山	26,032	9,391	13,071	39.2%	-49.8%
19 南アルプス	21,845	19,100	28,014	46.7%	28.2%
20 伊勢志摩	2,966,325	2,563,470	2,710,209	5.7%	-8.6%
21 吉野熊野	686,928	463,807	459,705	-0.9%	-33.1%
22 山陰海岸	855,922	590,563	700,533	18.6%	-18.2%
23 瀬戸内海	1,618,006	1,261,928	1,490,188	18.1%	-7.9%
24 大山隠岐	334,875	277,419	238,160	-14.2%	-28.9%
25 足摺宇和海	152,214	105,013	113,543	8.1%	-25.4%
26 西海	65,268	21,483	62,895	192.8%	-3.6%
27 雲仙天草	460,911	327,849	372,916	13.7%	-19.1%
28 阿蘇くじゅう	1,248,665	931,918	1,370,082	47.0%	9.7%
29 霧島錦江湾	691,811	412,229	482,769	17.1%	-30.2%
30 屋久島	1,034	4,686	-	-	-
31 奄美群島	14,616	13,912	17,107	23.0%	17.0%
32 やんばる	72,610	150,584	142,659	-5.3%	96.5%
33 慶良間諸島	315,730	106,352	116,816	9.8%	-63.0%
34 西表石垣	505,801	421,425	510,636	21.2%	1.0%

3. 利用者アンケート調査の結果 (国立公園満喫プロジェクト 質の指標)

3 日本人・外国人Webアンケート調査結果一覧

		阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
訪問中の満足度	日本人	67.2%	70.3%	68.9%	75.3%	75.0%	75.4%	74.6%	59.4%	70.8%	63.1%	68.2%	73.7%	77.6%	71.3%	70.8%
	外国人	77.5%	78.7%	86.7%	85.7%	84.9%	76.7%	77.4%	77.9%	80.7%	80.6%	71.2%	81.6%	83.3%	66.7%	78.2%
友人・知人への 推奨意向	日本人	59.0%	64.0%	56.8%	64.3%	64.8%	72.5%	66.3%	60.8%	63.5%	55.8%	60.8%	63.0%	69.8%	63.8%	63.2%
	外国人	87.0%	78.7%	80.4%	81.6%	74.1%	73.7%	79.2%	81.4%	79.5%	84.0%	77.6%	87.4%	83.7%	88.9%	82.3%
訪問中の 支出額	日本人 平均値	¥30,028	¥27,128	¥26,000	¥32,101	¥26,721	¥19,570	¥31,433	¥41,400	¥28,546	¥21,470	¥22,729	¥27,615	¥32,199	¥22,821	¥27,206
	外国人 平均値	¥82,126	¥70,457	¥52,088	¥61,623	¥62,152	¥51,279	¥58,595	¥59,860	¥62,273	¥76,657	¥53,638	¥73,906	¥64,806	¥56,919	¥63,393
	日本人 中央値	¥25,000	¥22,400	¥23,750	¥28,000	¥20,605	¥17,623	¥25,000	¥32,750	¥24,000	¥20,000	¥20,000	¥23,000	¥26,750	¥20,000	¥23,000
	外国人 中央値	¥50,000	¥37,088	¥36,374	¥39,292	¥34,065	¥26,143	¥25,850	¥41,360	-	¥49,105	¥31,020	¥50,300	¥40,866	¥38,500	-
平均泊数	日本人 公園内	1.4泊	1.5泊	1.3泊	1.2泊	1.3泊	1.2泊	1.4泊	2.0泊	1.4泊	1.2泊	1.3泊	1.2泊	1.5泊	1.2泊	1.4泊
	外国人 公園内	0.6泊	0.5泊	0.4泊	0.4泊	0.3泊	0.3泊	0.4泊	0.3泊	0.4泊	0.4泊	0.5泊	0.3泊	0.4泊	0.4泊	0.4泊
	日本人 公園 周辺	1.5泊	1.3泊	1.2泊	1.1泊	1.2泊	1.2泊	1.4泊	2.2泊	1.5泊	1.3泊	1.2泊	1.0泊	1.3泊	1.2泊	1.4泊
	外国人 公園 周辺	0.7泊	0.4泊	0.3泊	0.4泊	0.3泊	0.3泊	0.3泊	0.4泊	0.4泊	0.6泊	0.5泊	0.3泊	0.4泊	0.4泊	0.4泊
国立公園としての 認知度	日本人	55.0%	60.5%	58.0%	55.5%	58.5%	60.8%	52.0%	38.8%	54.9%	54.0%	53.3%	61.8%	55.8%	48.3%	54.8%
	外国人	57.7%	45.9%	58.7%	49.0%	55.6%	50.0%	45.3%	56.7%	52.4%	62.0%	41.8%	61.7%	55.4%	44.4%	55.1%
リピーター率	日本人	48.3%	55.8%	72.8%	68.5%	66.5%	66.0%	48.3%	61.0%	60.9%	58.3%	64.8%	80.3%	67.3%	49.3%	62.1%
	外国人	32.5%	37.7%	30.4%	18.4%	25.9%	13.2%	18.9%	22.7%	25.8%	35.0%	26.9%	20.4%	35.9%	40.7%	26.9%

3.1 日本人Webアンケート調査の結果

- 調査方法：Webアンケート調査
- 調査期間：2024年1月15日～1月22日
- 対象公園：下記の13公園

阿寒摩周国立公園、支笏洞爺国立公園（うち、支笏湖・定山溪地域のみ）、十和田八幡平国立公園、三陸復興国立公園、磐梯朝日国立公園（うち、磐梯吾妻・猪苗代地域のみ）、日光国立公園、富士箱根伊豆国立公園（うち、富士山麓及び箱根地域のみ）、中部山岳国立公園（うち、南部地域（長野県松本市・岐阜県高山市）のみ）、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、慶良間諸島国立公園

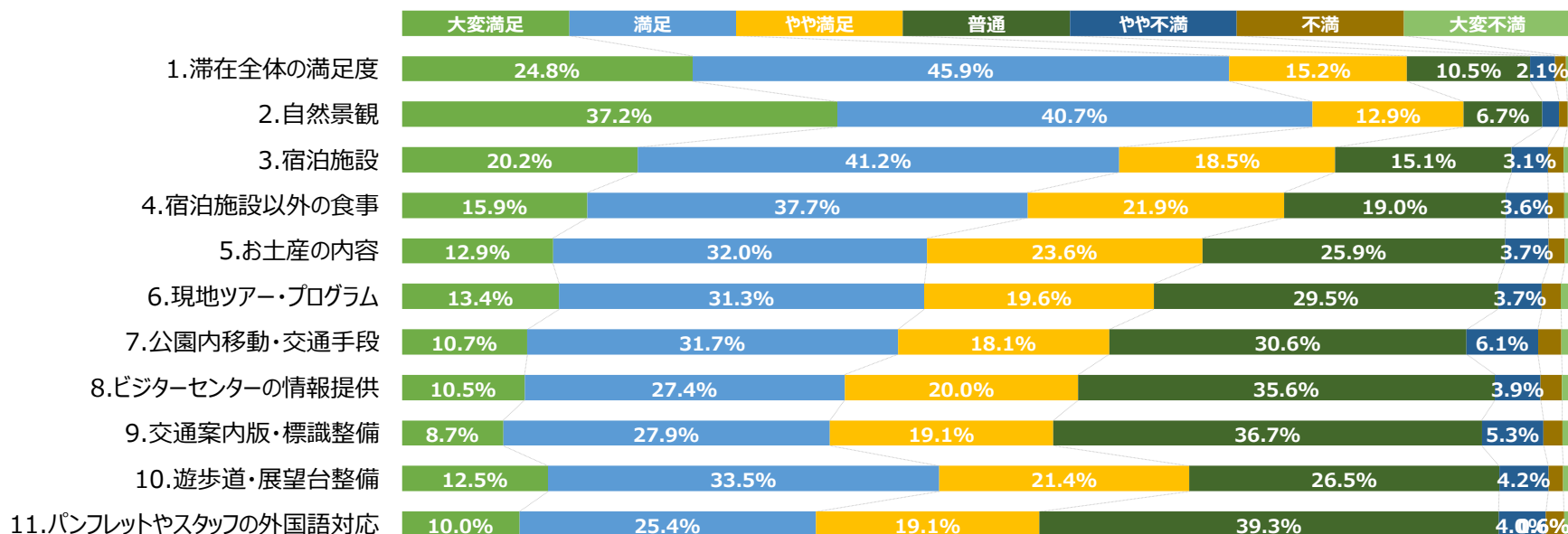
- 調査対象：日本全国に居住する18～69歳の方
- 回答者数：5,200名

調査背景・留意事項等

- 国立公園満喫プロジェクトの成果指標については、訪日外国人利用者数及び国内利用者数（延べ宿泊者数）に加え、自然を満喫できる質の高いツーリズムの実現に向けた「質」の指標（一人あたり消費額、リピーター率、認知度、満足度等）も定めることとしている。
- 2022年は、日本人の国立公園訪問者を対象としたWebアンケートパネル調査により質の指標の算出を行い、一定程度、安定的にデータの回収・分析が可能であることが確認された。
- 2023年の調査においては、前年の成果を踏まえて調査方法や設問設計等の改善を図り、日本人に加え、訪日外国人も対象とした国立公園訪問者アンケートを実施した。

3.1 ①訪問中の満足度

- 滞在全体の満足度で「大変満足・満足」と回答した人は、**13公園計70.8%**となった
- 個別項目の満足度においては、「自然景観」が77.9%で最も高く、「交通案内版・標識整備」が36.6%と最も低い
- 公園別には中部山岳が77.6%と高く、次いで阿蘇くじゅうが75.4%となっている

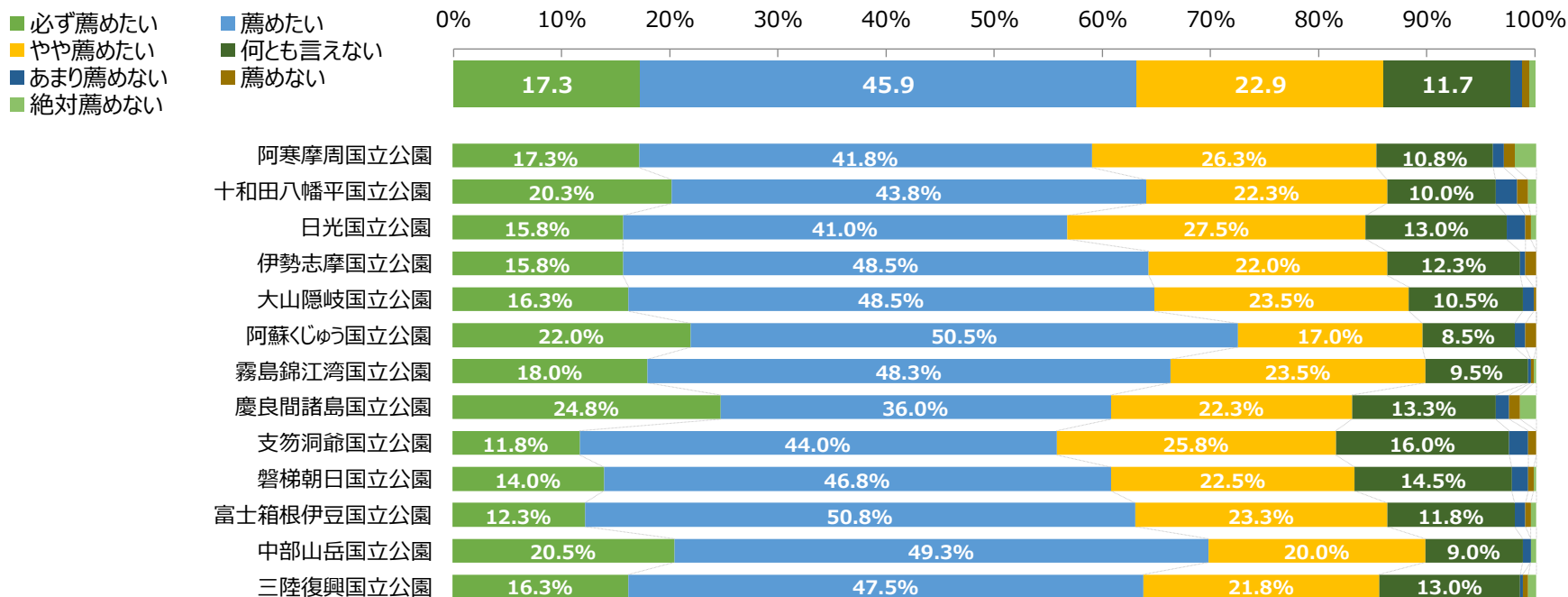


	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	67.2	70.3	68.9	75.3	75.0	75.4	74.6	59.4	70.8	63.1	68.2	73.7	77.6	71.3	70.8
2022	54.9	65.7	72.6	72.1	66.0	74.9	72.8	55.8	66.8	62.3	65.4	73.9	78.0	-	68.1
2019	66.2	66.6	65.6	63.3	59.0	72.3	75.3	87.9	69.5	67.2	-	55.0	81.2	-	69.1

※設問に対する選択肢のうち、「該当無し」と回答した方は除いて集計
 ※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

3.1 ②友人・知人への推奨意向

- 推奨意向で「必ず薦めたい・薦めたい」と回答した人は、**13公園計63.2%**となった
- 公園別には阿蘇くじゅうが72.5%と高く、次いで中部山岳が69.8%となっている

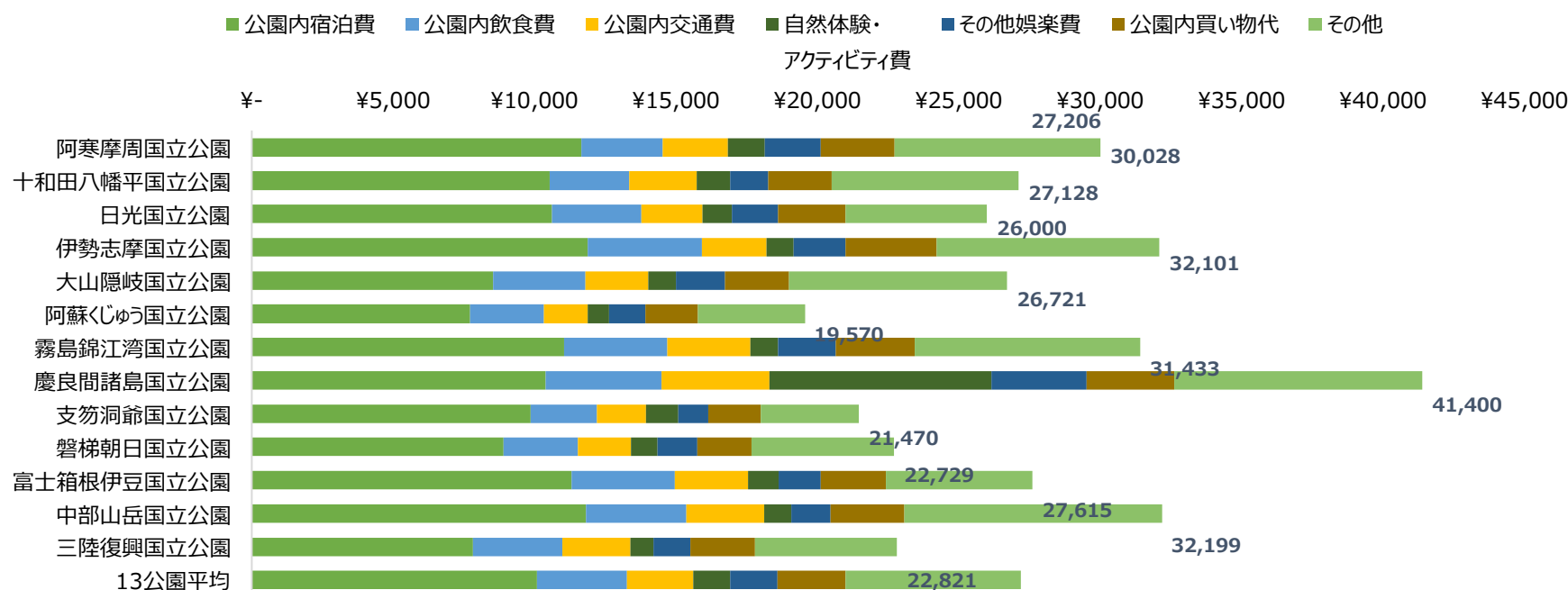


	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	59.0	64.0	56.8	64.3	64.8	72.5	66.3	60.8	63.5	55.8	60.8	63.0	69.8	63.8	63.2
2022	57.6	65.9	66.8	65.1	61.2	70.0	67.8	65.1	64.9	57.5	60.3	64.6	69.6	-	64.6
2019	87.8	90.2	87.9	86.5	86.1	89.5	87.4	94.9	88.8	83.5	-	84.2	93.7	-	88.3

※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

3.1 ③訪問中の支出額

- 一人当たり支出額は、13公園平均で27,206円（中央値は23,000円）となった
 - 公園別には慶良間諸島が平均41,400円と高く、次いで伊勢志摩が平均32,199円となっている
- ※注）今年度より、外れ値を取り除くための処理として標本の上下5%ずつを除外して集計しているため、過年度調査との比較は参考程度



	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023 平均値	30,028	27,128	26,000	32,101	26,721	19,570	31,433	41,400	28,546	21,470	22,729	27,615	32,199	22,821	27,206
2023 中央値	25,000	22,400	23,750	28,000	20,605	17,623	25,000	32,750	24,000	20,000	20,000	23,000	26,750	20,000	23,000
2022	28,620	31,096	25,593	34,933	28,571	24,603	28,501	50,915	31,604	30,104	24,909	26,838	28,862	-	30,295
2019	19,382	23,505	37,081	32,940	32,392	12,195	39,751	39,844	27,866	16,051	-	11,729	33,311	-	25,820

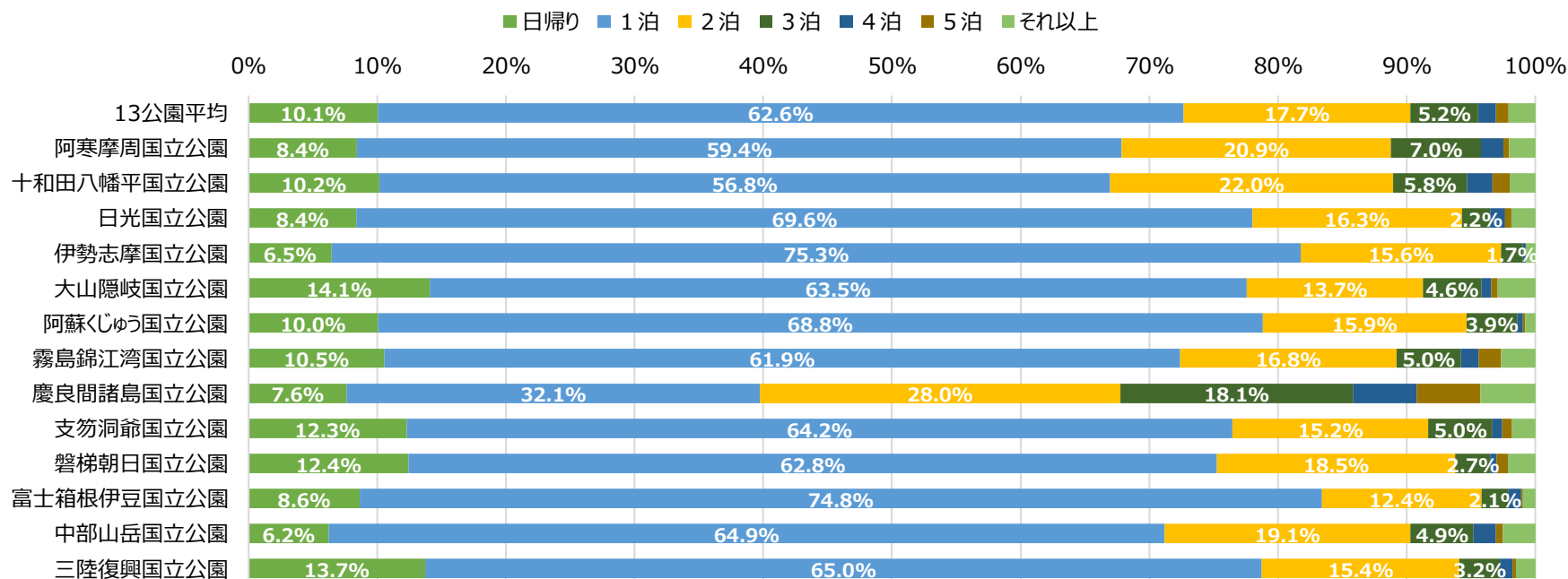
※公園内で支出した金額：例えば、自宅～公園までの移動にかかる交通費等は含まない。

※平均値は、外れ値を取り除くために上下5%ずつの数値を除外して集計。

※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

3.1 ④平均泊数

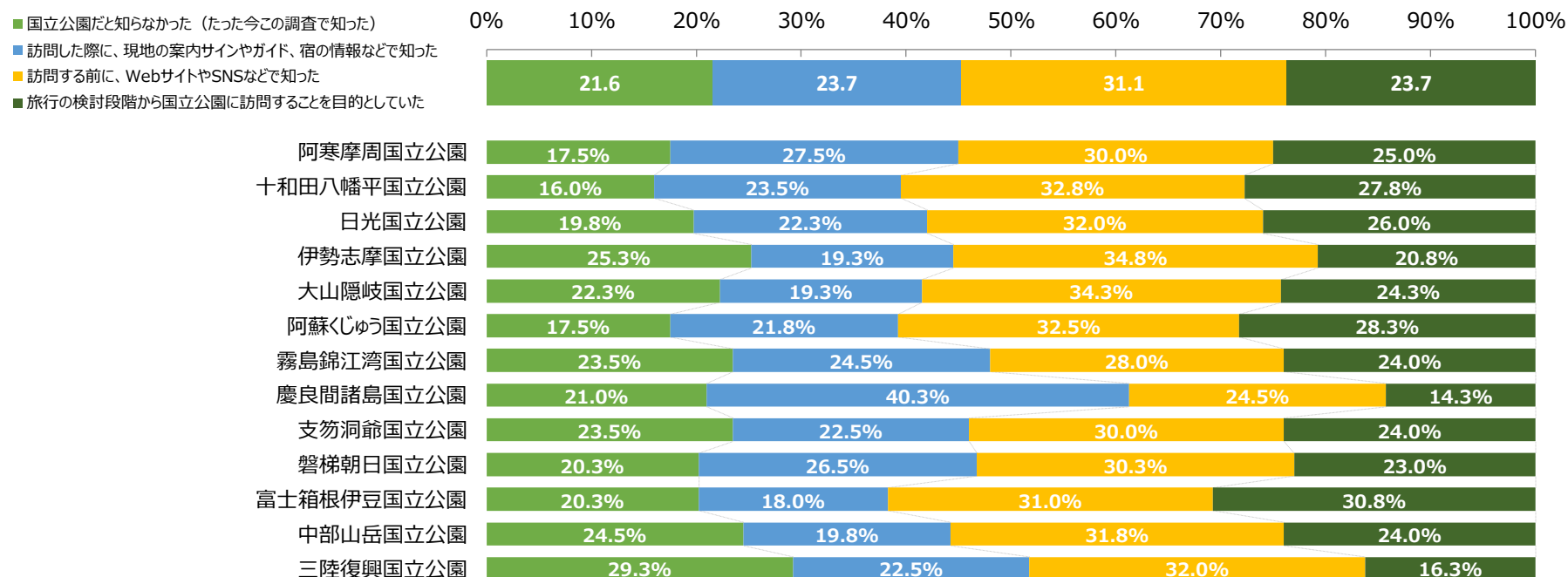
- 国立公園における平均泊数は、**13公園平均で1.4泊（公園内：平均1.5泊、公園周辺：平均1.4泊）**となった
- 公園別には慶良間諸島が平均2.1泊と高く、次いで阿寒摩周・十和田八幡平・霧島錦江湾・中部山岳が平均1.4泊となっている



		阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	公園内	1.4	1.5	1.3	1.2	1.3	1.2	1.4	2.0	1.4	1.2	1.3	1.2	1.5	1.2	1.4
	公園周辺	1.5	1.3	1.2	1.1	1.2	1.2	1.4	2.2	1.5	1.3	1.2	1.0	1.3	1.2	1.4
2022(全体)		1.4	1.9	3.5	2.3	1.6	1.6	1.9	1.5	2.0	3.4	2.4	2.2	2.6	-	2.2
2019(全体)		2.1	1.6	1.5	1.3	1.6	1.6	2.2	3.3	1.9	2.0	-	1.5	1.6	-	1.8

3.1 ⑤国立公園としての認知度

- 国立公園としての認知度（訪問前に国立公園だと認知していた方の割合）は、**13公園平均で54.8%**となった
- 公園別には富士箱根伊豆が61.8%と高く、次いで阿蘇くじゅうが60.8%となっている

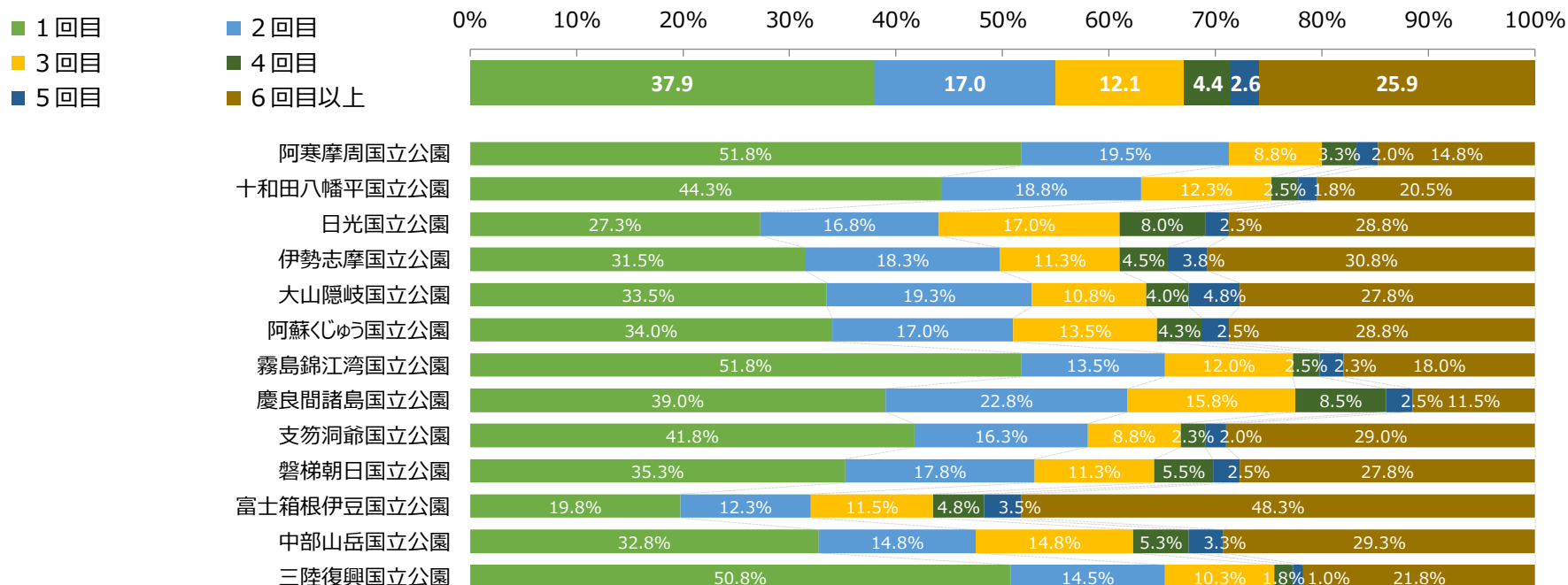


	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	55.0	60.5	58.0	55.5	58.5	60.8	52.0	38.8	54.9	54.0	53.3	61.8	55.8	48.3	54.8
2022	71.4	75.2	67.0	57.5	70.5	71.6	65.7	63.1	67.8	67.3	69.1	66.9	51.9	-	66.4
2019	82.6	73.4	74.0	51.6	54.0	62.8	48.3	67.0	64.2	70.8	-	68.0	76.7	-	66.3

※2019年・2022年調査とは設問内容が異なるため、経年比較は参考程度。

3.1 ⑥リピーター率

- 国立公園におけるリピーター率は、13公園平均で62.1%となった
- 公園別には富士箱根伊豆が80.3%と高く、次いで日光が72.8%となっている



	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	48.3	55.8	72.8	68.5	66.5	66.0	48.3	61.0	60.9	58.3	64.8	80.3	67.3	49.3	62.1
2022	56.5	60.6	76.8	74.6	71.3	74.1	61.5	50.1	65.7	64.9	72.2	81.3	67.4	-	67.6
2019	63.9	58.8	82.7	57.7	46.4	58.6	42.0	52.1	57.8	66.7	-	80.9	71.1	-	61.9

※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

3.2 外国人Webアンケート調査の結果

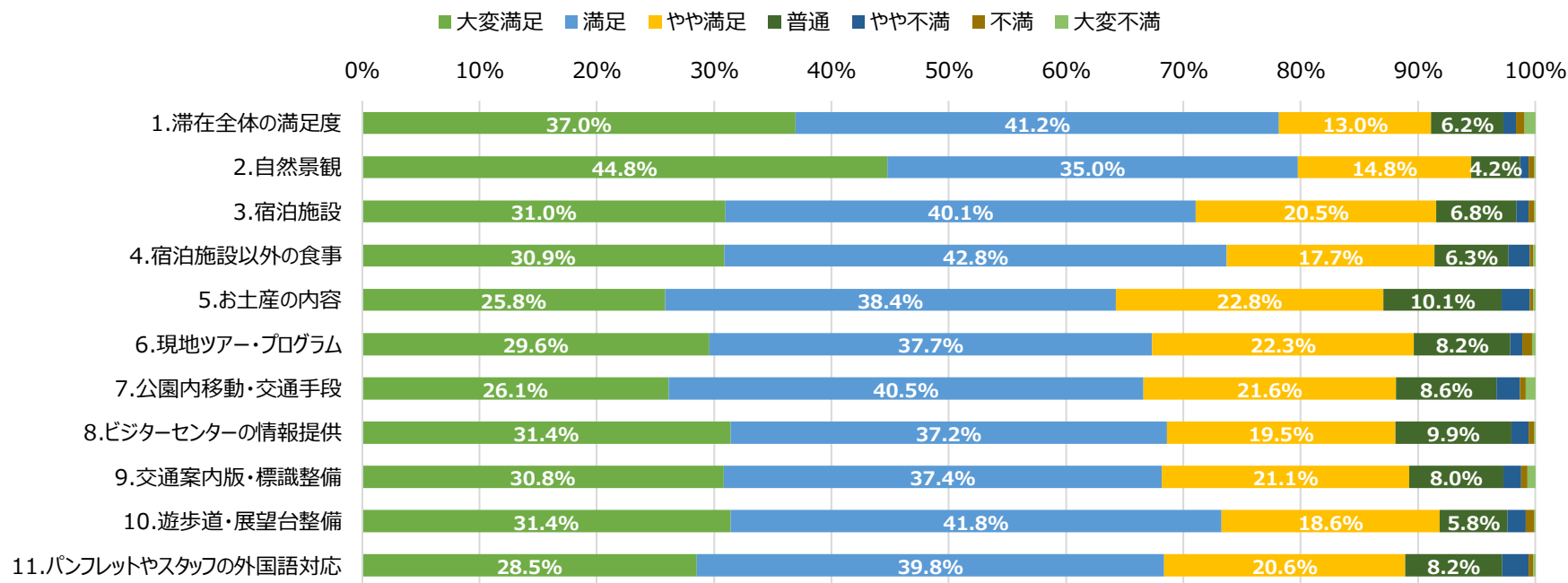
- 調査方法：Webアンケート調査
- 調査期間： 1回目：2023年10月23日～11月20日
2回目：2024年1月15日～2月8日
- 対象公園：下記の13公園
阿寒摩周国立公園、支笏洞爺国立公園（うち、支笏湖・定山溪地域のみ）、十和田八幡平国立公園、三陸復興国立公園、磐梯朝日国立公園（うち、磐梯吾妻・猪苗代地域のみ）、日光国立公園、富士箱根伊豆国立公園（うち、富士山麓及び箱根地域のみ）、中部山岳国立公園（うち、南部地域（長野県松本市・岐阜県高山市）のみ）、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、慶良間諸島国立公園
- 調査対象：下記12カ国・地域に居住する18歳以上の訪日外国人
アジア：韓国、香港、台湾、中国、タイ、シンガポール
欧米豪：アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、フランス、ドイツ
- 回答者数：500名

調査背景・留意事項等

- 今回初めて、訪日外国人向け調査において、日本人向け調査と同様にWebアンケートパネル調査による質の指標の収集・分析の可能性について検証を行った。
- 設問項目は日本人向け調査と同様の内容にて実施したが、サンプルの出現率が日本人より少ないことを踏まえてサンプルの条件割付は設定せずにサンプル回収を実施した。
- また、調査は1～6月の公園訪問者と7～12月の公園訪問者をそれぞれ対象とした計2回実施したが、三陸復興国立公園においては2回目調査より調査対象に追加したためサンプル数が少ない点に留意。

3.2 ①訪問中の満足度

- 滞在全体の満足度で「大変満足・満足」と回答した人は、**13公園計78.2%**となった
- 個別項目の満足度においては、「自然景観」が79.8%で最も高く、「公園内移動・交通手段」が66.6%と最も低い
- 公園別には日光が86.7%と高く、次いで伊勢志摩が85.7%となっている

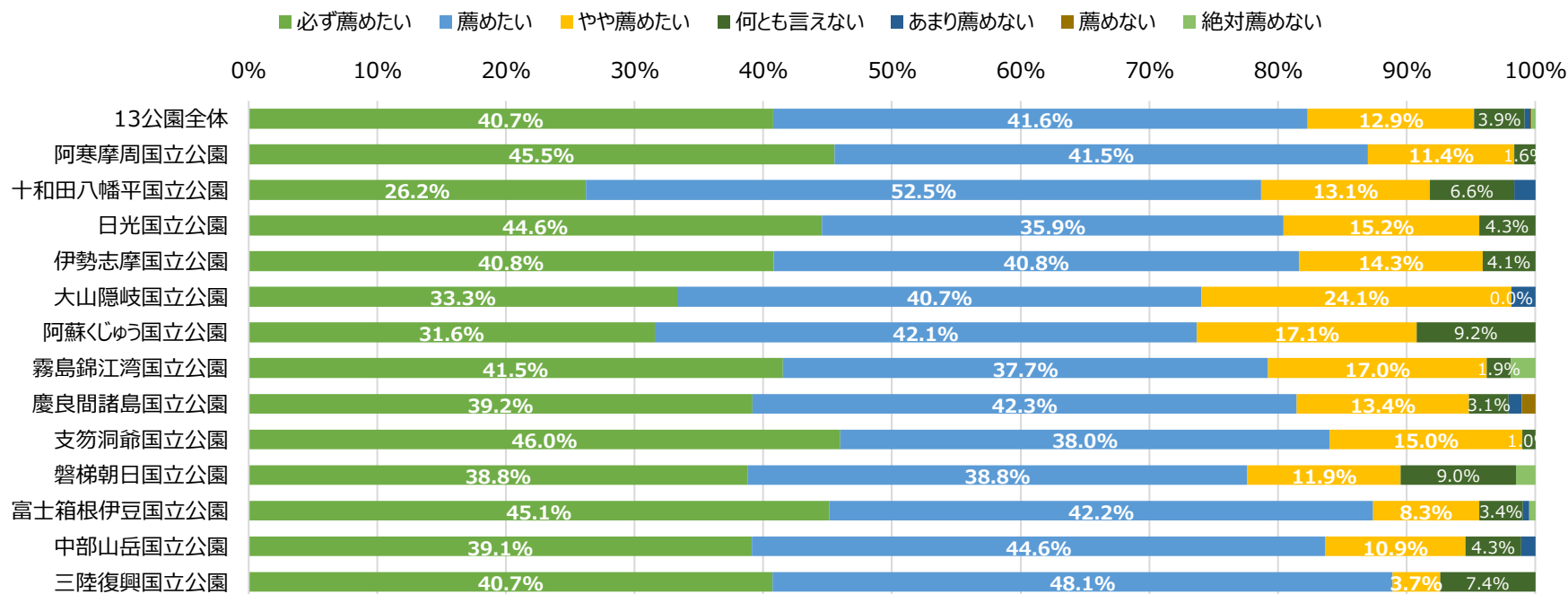


	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	77.5	78.7	86.7	85.7	84.9	76.7	77.4	77.9	80.7	80.6	71.2	81.6	83.3	66.7	78.2
2019	85.6	87.3	86.1	84.8	65.2	84.9	81.6	91.3	83.4	85.4	-	87.5	90.7	-	84.6

※設問に対する選択肢のうち、「該当無し」と回答した方は除いて集計
 ※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

3.2 ②友人・知人への推奨意向

- 推奨意向で「必ず薦めたい・薦めたい」と回答した人は、**13公園82.3%**となった
- 公園別には三陸復興が88.9%と高く、次いで富士箱根伊豆が87.4%となっている

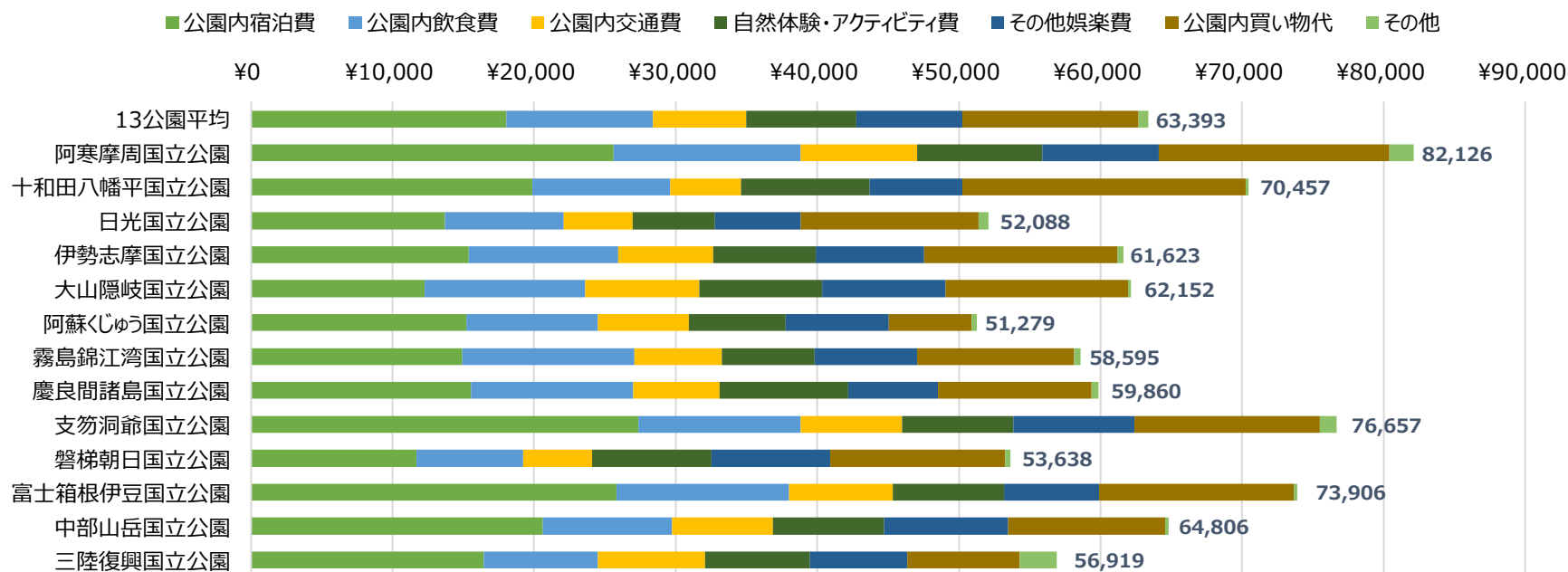


	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	87.0	78.7	80.4	81.6	74.1	73.7	79.2	81.4	79.5	84.0	77.6	87.4	83.7	88.9	82.3
2019	92.5	91.5	93.3	90.0	71.7	90.2	83.4	97.0	88.7	93.1	-	93.5	95.0	-	90.2

※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

3.2 ③訪問中の支出額

- 一人当たり支出額は、**13公園平均で63,393円**となった
- 公園別には阿寒摩周が平均82,126円と高く、次いで支笏洞爺が平均76,657円となっている



	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023 平均値	82,126	70,457	52,088	61,623	62,152	51,279	58,595	59,860	62,273	76,657	53,638	73,906	64,806	56,919	63,393
2023 中央値	50,000	37,088	36,374	39,292	34,065	26,143	25,850	41,360	-	49,105	31,020	50,300	40,866	38,500	-
2019	68,633	66,023	37,081	90,629	85,957	42,409	95,537	34,102	65,046	57,467	-	39,754	56,697	-	61,299

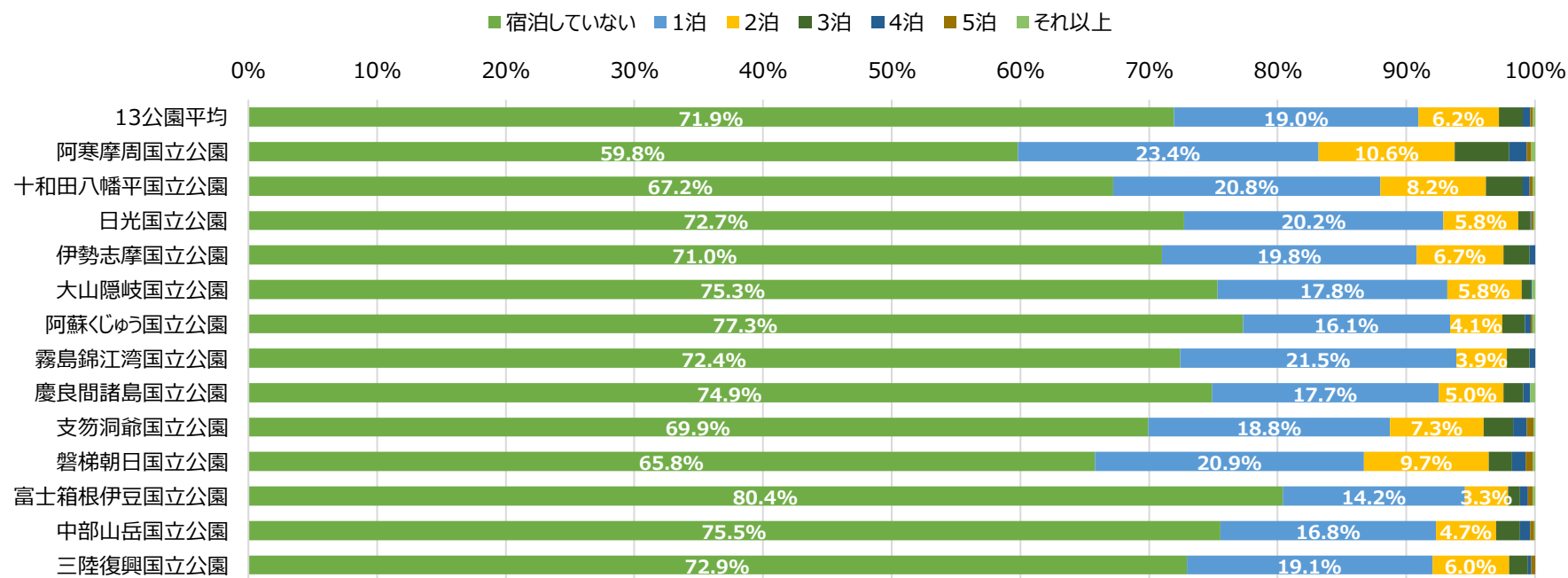
※公園内で支出した金額：例えば、自宅～公園までの移動にかかる交通費等は含まない。
※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

※平均値は、外れ値を取り除くために上下5%ずつの数値を除外して集計。

3.2 ④平均泊数

- 国立公園における平均泊数は、**13公園平均で0.4泊（公園内：平均0.4泊、公園周辺：平均0.4泊）**となった
- 公園別には十和田八幡平と磐梯朝日が平均0.5泊と高い

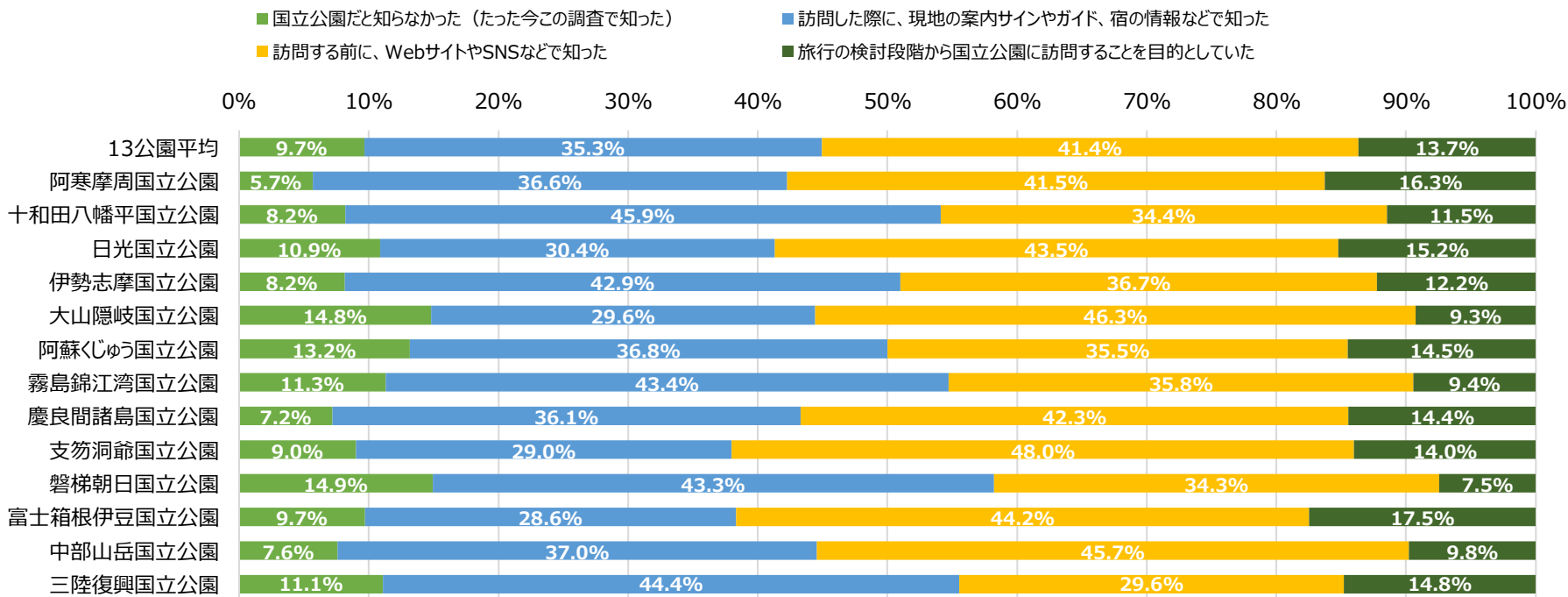
※注）今回調査では具体的な場所・地名を指定しての宿泊日数調査を行ったが、回答者側が自身の宿泊した場所・地名を正確に把握していなかったために全体的に宿泊日数が低い結果となっていると考えられる



	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	公園内	0.6	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4
	公園周辺	0.7	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.6	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4
2019(全体)	3.6	2.5	3.2	2.4	3.3	2.9	3.5	6.2	3.4	3.7	-	1.8	2.7	-	3.3

3.2 ⑤国立公園としての認知度

- 国立公園としての認知度（訪問前に国立公園だと認知していた方の割合）は、**13公園平均で55.1%**となった
- 公園別には支笏洞爺が62.0%と高く、次いで富士箱根伊豆が61.7%となっている

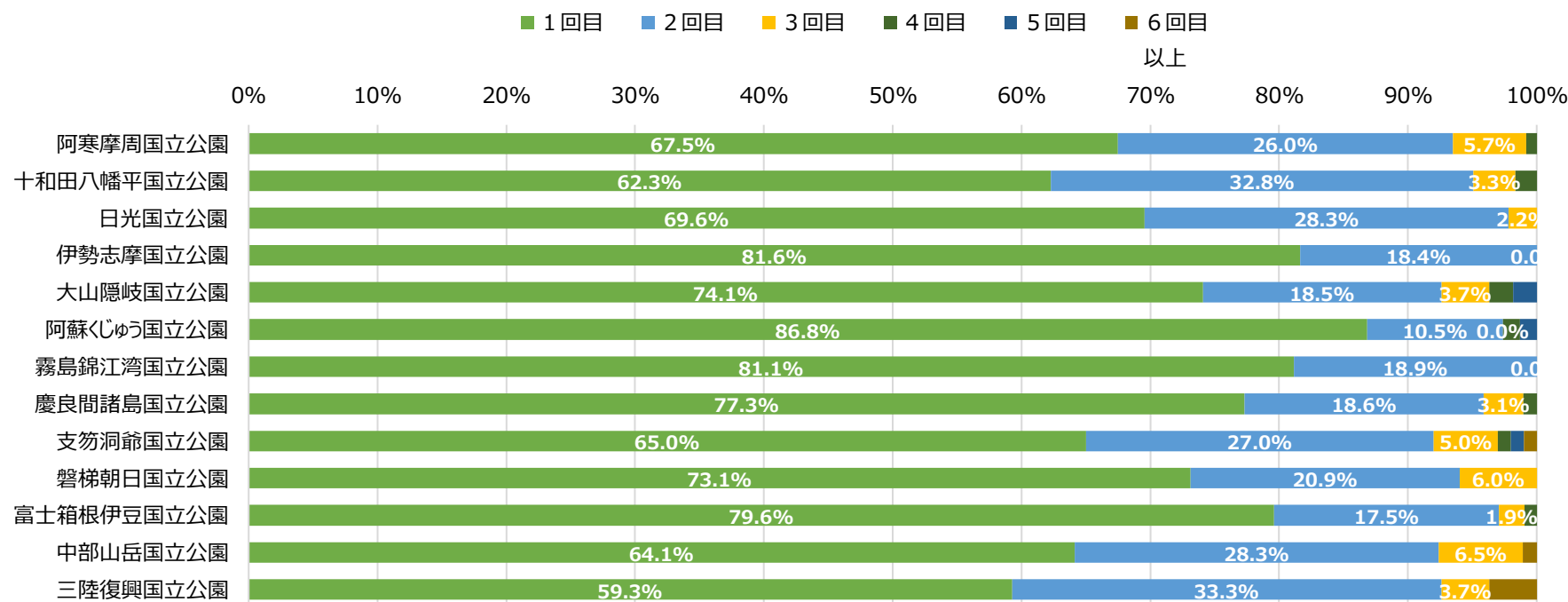


	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	57.7	45.9	58.7	49.0	55.6	50.0	45.3	56.7	52.4	62.0	41.8	61.7	55.4	44.4	55.1
2019	87.2	72.2	74.0	58.0	53.3	62.0	63.6	77.4	68.5	71.5	-	76.1	71.4	-	69.7

※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

3.2 ⑥リピーター率

- 国立公園におけるリピーター率は、**13公園平均で26.9%**となった
- 公園別には三陸復興が40.7%と高く、次いで十和田八幡平が37.7%となっている



	阿寒 摩周	十和田 八幡平	日光	伊勢 志摩	大山 隠岐	阿蘇 くじゅう	霧島 錦江湾	慶良間 諸島	8公園 計	支笏 洞爺	磐梯 朝日	富士箱 根伊豆	中部 山岳	三陸 復興	13公園 計
2023	32.5	37.7	30.4	18.4	25.9	13.2	18.9	22.7	25.8	35.0	26.9	20.4	35.9	40.7	26.9
2019	13.6	17.1	22.1	15.4	7.4	7.9	11.3	14.7	13.7	14.9	-	21.7	16.3	-	14.7

※2019年調査とは調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。

【参考資料】訪日外国人アンケート調査の振り返り

- 訪日外国人利用者に関する質の指標調査として、本年度初めてWebモニター型アンケート調査を試行したが、1公園においては現地アンケート調査も合わせて実施し、Web/対面それぞれの調査手法の有効性・妥当性を検証した

本年度の訪日外国人アンケート調査の実施概要

	Webモニター型アンケート調査	現地アンケート調査
調査方法	Webモニター型アンケート調査	▶ 調査員を派遣した現地調査方式
調査対象	- 下記12カ国・地域に居住する18歳以上の訪日外国人 ✓ アジア：韓国、香港、台湾、中国、タイ、シンガポール ✓ 欧米豪：アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、フランス、ドイツ	▶ 18歳以上の訪日外国人旅行者 ※国籍問わず全ての訪日旅行者にアンケート回答を呼びかけ
調査場所・実施日	- Web上で上期・下期に分けて2回実施 ✓ 1回目：2023年10月23日～11月20日 ✓ 2回目：2024年1月15日～2月8日	- 中部山岳国立公園 ✓ 1日目：平湯バスターミナル ✓ 2日目：上高地インフォメーションセンター
サンプル回収状況	- 回答者数は2回合計で計500名 ✓ 内訳：韓国110名、香港85名、中国81名、台湾72名、タイ70名、シンガポール51名、イギリス11名、フランス8名、ドイツ7名、アメリカ2名、カナダ2名、オーストラリア1名	- 回答者数は2日間合計で計70名 ✓ 内訳：東南アジア23名、欧州20名、東アジア11名と続く

【参考資料】訪日外国人アンケート調査の振り返り

- 2種類の調査手法を比較すると、Webモニター型アンケート調査の方が妥当性の高い結果となっている。一方、平均泊数については確認方法に改善の余地が見込まれる

		Webモニター型 アンケート調査 n=92	現地 アンケート調査 n=70	参考： 日本人向け調査 n=400	調査結果の比較検証
定性的な指標	満足度 (大変満足・満足の割合)	83.3 %	93.8 %	77.6 %	- 満足度・推奨意向といった定性的な意見については、現地調査の方が好意的な結果になりやすい - 旅行後に俯瞰した状態で回答しているWebモニター型アンケート調査の方がより実態に近い値であると考えられる
	推奨意向 (必ず薦めたい・薦めたいの割合)	83.7 %	98.5 %	69.8 %	
定量的な指標	訪問中の支出額 (国立公園内の支出合計額)	平均値：64,806円 中央値：40,866円	平均値：16,627円 中央値：7,000円	平均値：32,199円 中央値：26,750円	- 支出額については、Webモニター型アンケート調査は比較的妥当性のある金額だが、現地アンケート調査では回答時間の制約もあり正確な金額を記入していないと思われる - 平均泊数については、国立公園の区域がどこまでが不明瞭かつ、訪日外国人が地名や場所を正確に認識していないため、確認方法について改善の余地が見込まれる
	平均泊数 ※具体的な地名を指定して宿泊日数を質問し、集計	公園内：0.4泊 公園周辺：0.4泊	公園内：0.3泊 公園周辺：1.5泊	公園内：1.5泊 公園周辺：1.3泊	

【参考資料】訪日外国人アンケート調査の振り返り

- 次年度は、一度に多数のサンプルを取得できるWebモニター型アンケート調査を主軸としつつ、今年度調査での反省を踏まえて設問設計やサンプル数等の見直しを図る予定

本年度の訪日外国人アンケート調査の実施概要

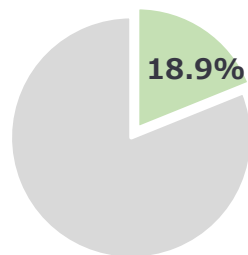
	Webモニター型アンケート調査	現地アンケート調査
メリット	- 一度に一定数の回答を得ることができるため、統計誤差による影響を低減することができる - サンプル一人あたりの調査単価が比較的安い	- 現地での観光体験について鮮度の高い意見や情報を入手することができる - 特に、満足度や推奨意向等の定性意見については、実体験に沿った好意的な意見が出やすい傾向 ※定量情報の収集においては質問の仕方に注意が必要
デメリット	- 訪問から日が経ってからの回答となるため記憶をたどりながら回答してもらう必要がある 詳細な内容を聞きすぎると、有効なデータを得ることができないため、調査内容の簡略化が必須 サンプルの割付設定を行わない場合、欧米豪からの旅行者について十分なサンプル数が得られない	- 調査員を派遣する場合、サンプル一人あたりの調査単価が比較的高い 回答者の時間的な制約があるため、待ち時間等での短時間で回答してもらうことが必要 - 特定の集団から複数人に回答してもらう場合等、回答者属性の偏りが発生する可能性がある
次年度以降の調査の活用方針（案）	メインの調査手法として活用 - 訪日外国人でも回答しやすいように調査項目を絞る・固有名詞や自由記述をできるだけ避ける等の設問設計上の工夫を施す	- 現地調査については、特別な目的がある場合に実施を検討する - 次年度も1公園程度は現地調査を併用することを検討する

4. 日本全体の観光や地方誘客に対する 国立公園の貢献度

4.1 国立公園による日本への誘客効果

- 日本の自然や四季の体験・観光に期待して来日した訪日外国人のうち、**全体の20%程度の訪日外国人が国立公園を訪れている**

日本への誘客効果



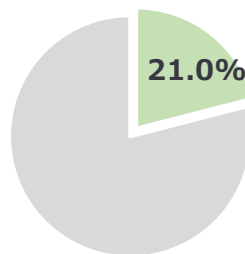
訪日外国人数

4,787,169

日本の自然に期待して来日し、
実際に国立公園を訪問した数

904,524

2023年1-3月期

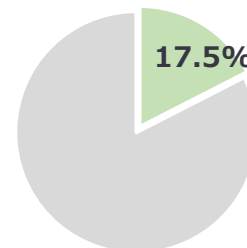


訪日外国人数

5,903,493

1,239,409

2023年4-6月期

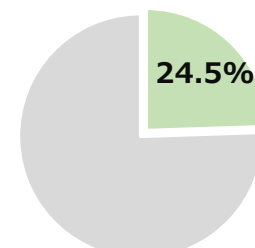


訪日外国人数

6,578,059

1,149,857

2023年7-9月期



訪日外国人数

7,630,532

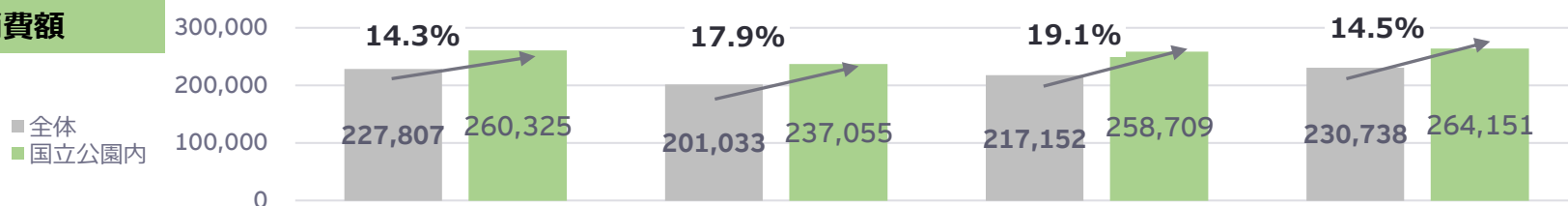
1,867,616

2023年10-12月期

4.2 国立公園による消費額・滞在日数への貢献

- 全訪日外国人の平均消費額より**国立公園を訪れた訪日外国人の平均消費額の方が、14%以上多い**
- 全訪日外国人の滞在日数より**国立公園を訪れた訪日外国人の滞在日数の方が、長くなる傾向**があり、平均滞在日数に関しても、2023年1-3月期を除き国立公園を訪れた訪日外国人の方が長くなっている

消費額



訪日外国人の平均消費額

227,807

201,033

217,152

230,738

国立公園を訪れた
訪日外国人の平均消費額

260,325

237,055

258,709

264,151

2023年1-3月期

2023年4-6月期

2023年7-9月期

2023年10-12月期

滞在日数

91日間以上1年未満
28～90日間
21～27日間
14～20日間
7～13日間
4～6日間
3日間以内

長
↑
↓
短

全体	国立公園	全体	国立公園	全体	国立公園	全体	国立公園
3.5%	2.2%	1.1%	1.2%	2.2%	1.7%	1.0%	0.7%
4.6%	6.7%	4.1%	6.5%	4.5%	6.4%	3.2%	4.7%
2.8%	5.3%	3.1%	5.8%	3.6%	6.1%	3.2%	6.4%
11.5%	17.4%	13.9%	21.9%	13.2%	19.7%	14.1%	19.1%
36.4%	39.5%	34.8%	37.1%	39.3%	38.7%	37.7%	39.0%
34.6%	26.1%	35.2%	25.0%	31.6%	25.9%	33.7%	27.8%
6.6%	2.9%	7.7%	2.5%	5.6%	1.4%	7.0%	2.3%

平均滞在日数

16.84日 16.47日

12.64日 15.12日

14.70日 15.87日

12.00日 13.18日

2023年1-3月期

2023年4-6月期

2023年7-9月期

2023年10-12月期

4.3 国立公園による満足度・再訪意向の醸成への貢献

- 全訪日外国人よりも国立公園を訪れた訪日外国人の方が、日本訪問の満足度が高い
- 全訪日外国人よりも国立公園を訪れた訪日外国人の方が、再訪意向が高い

満足度

	全体	国立公園	全体	国立公園	全体	国立公園	全体	国立公園
大変満足	76.4%	78.6%	73.8%	77.8%	71.3%	76.6%	75.1%	77.7%
満足	21.3%	18.9%	23.5%	20.7%	25.5%	21.8%	22.2%	19.6%
やや満足	1.5%	1.4%	1.9%	0.9%	2.1%	1.1%	1.9%	2.1%
普通	0.6%	0.7%	0.6%	0.5%	0.7%	0.3%	0.7%	0.5%
やや不満	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.3%	0.0%	0.2%	0.1%
不満	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
大変不満	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
	2023年1-3月期		2023年4-6月期		2023年7-9月期		2023年10-12月期	

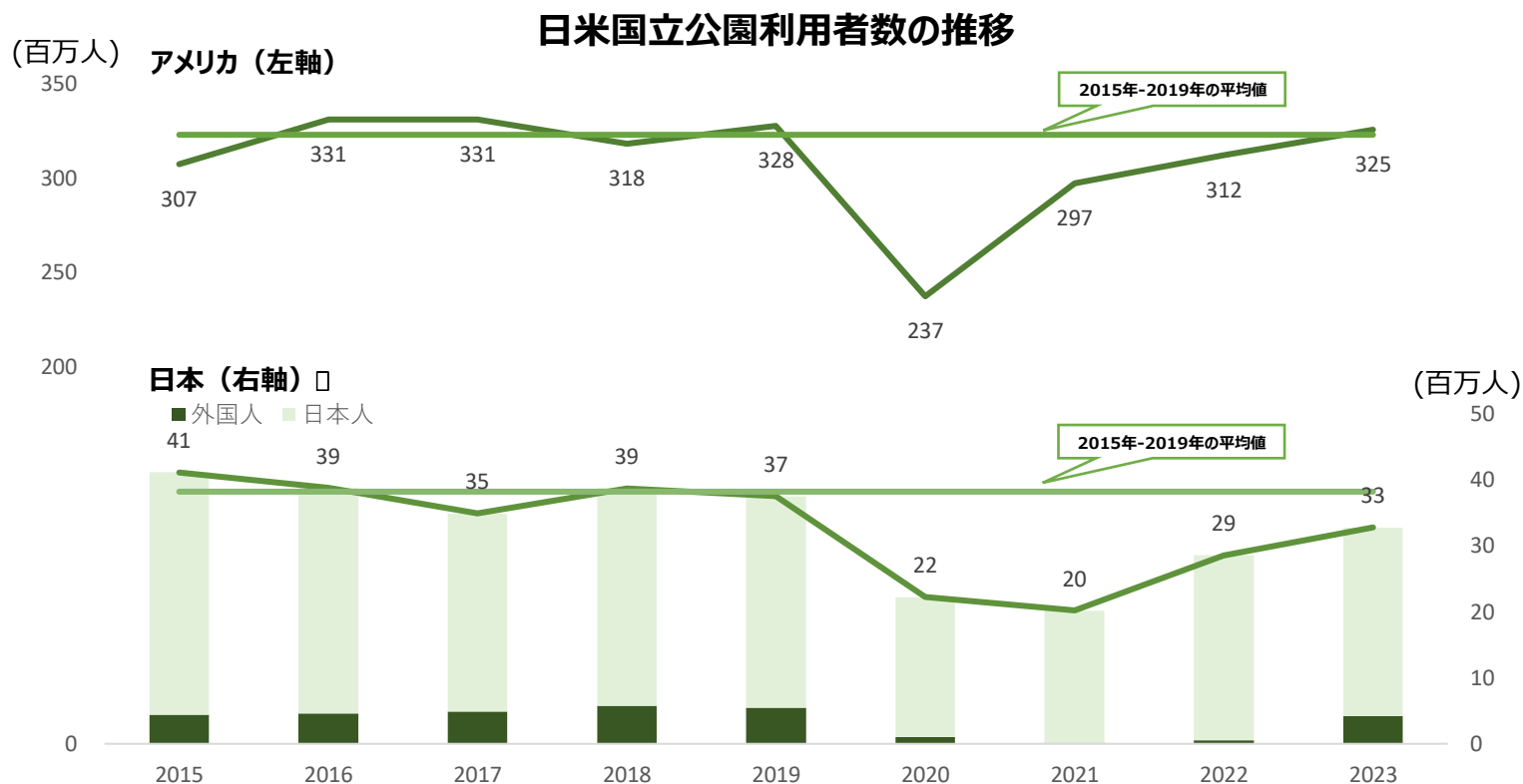
再訪意向の醸成

	全体	国立公園	全体	国立公園	全体	国立公園	全体	国立公園
必ず来たい	79.7%	81.6%	77.2%	77.2%	74.8%	77.7%	76.7%	76.8%
来たい	18.1%	16.1%	19.7%	18.6%	21.4%	18.8%	19.3%	17.9%
やや来たい	1.5%	1.6%	2.1%	2.7%	2.5%	2.6%	2.2%	3.1%
何ともいえない	0.5%	0.5%	0.7%	1.1%	1.0%	0.7%	1.4%	2.0%
あまり来たくない	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%	0.2%	0.0%
来たくない	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%
絶対来たくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	2023年1-3月期		2023年4-6月期		2023年7-9月期		2023年10-12月期	

5. 国立公園の利用に関する特徴的な動向 (国内外)

5.1 海外における国立公園の動向

- 2023年のアメリカにおける国立公園利用者数はコロナ禍前並みの水準に改善
- 日本についてもコロナ禍前の水準に戻ってきつつあるものの、アメリカと比較すると利用者数の回復が遅れている傾向がある



※アメリカはレクリエーション利用者数、日本は国立公園内区域宿泊者数の日本人、外国人合算値

5.1 海外における国立公園の動向

- 観光客が求める旅の質の変化として、古来の宗教巡礼路を巡るロングトレイルが欧州を中心に人気を博している。独自の歴史文化を体感できることが最大の魅力であり、そうした宗教巡礼路をロングトレイルとして再整備する動きが広がっている
- 日本でも熊野三山を巡る熊野古道でインバウンドが急増し、コロナ前を上回る



海外事例

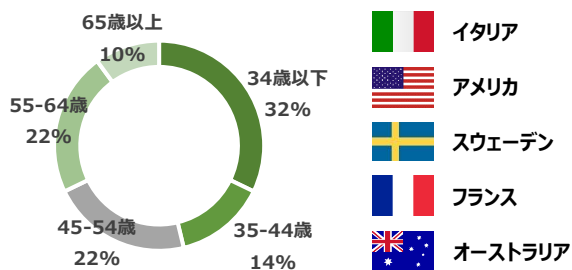
事例1 ヴィア・フレンチジェーナの巡礼路

- イギリスのカンタベリーからフランス・スイスを通り、ローマのバチカンまでを巡る2,000km以上の巡礼路で、仏フォレ国立公園などを経由
- 管理は各地域自治体などの公的機関が実施し、非営利団体EAVFが全体の調整を担う
- 中世から続く歴史ある古道で、ロングトレイルとして再整備された
- 近年若年層や海外の巡礼者が増加傾向

事例2 サンティアゴ・デ・コンポステーラに続く巡礼路

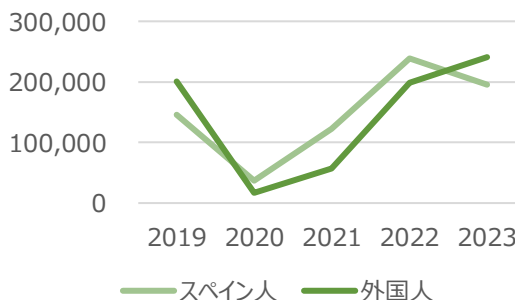
- キリスト教三大巡礼路の一つで、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指し、フランスやポルトガルから巡礼者が集まる
- サンティアゴ巡礼路友の会連盟に所属する非営利団体が道標の設置など管理維持を担う
- 巡礼者数はコロナ前を上回り、2023年は過去最高を記録
- フランスのピレネー国立公園などを経由

巡礼者の年齢構成と主要国籍TOP5（2023）



※ Associazione Europea delle Vie FrancigeneよりEY作成

巡礼者数の推移



※ Catedral of SantiagoよりEY作成

国内事例

事例3 熊野古道（吉野熊野国立公園）

- 熊野三山（熊野本宮大社、熊野那智大社、熊野速玉大社）へと通じる参詣道
- 2023年にはインバウンドが急増し、コロナ前を上回る外国人観光客が訪れる
- 主要国籍はオーストラリア、アメリカ、イギリス
- サンティアゴ・デ・コンポステーラ市と協定を結び、熊野古道とサンティアゴ・デ・コンポステーラ両巡礼を達成した人には限定品を贈呈



5.2 サステナブルツーリズムに関する動向

- サステナブルツーリズムに係る取組を日本と海外で比較すると、**日本は地方各地でコンテンツ開発を実施する特徴**があり、**温泉活用やリサイクルで先進**
- ブランド構築・モビリティ関連取り組みの希薄さ、ガイド・情報発信・認証制度が課題**

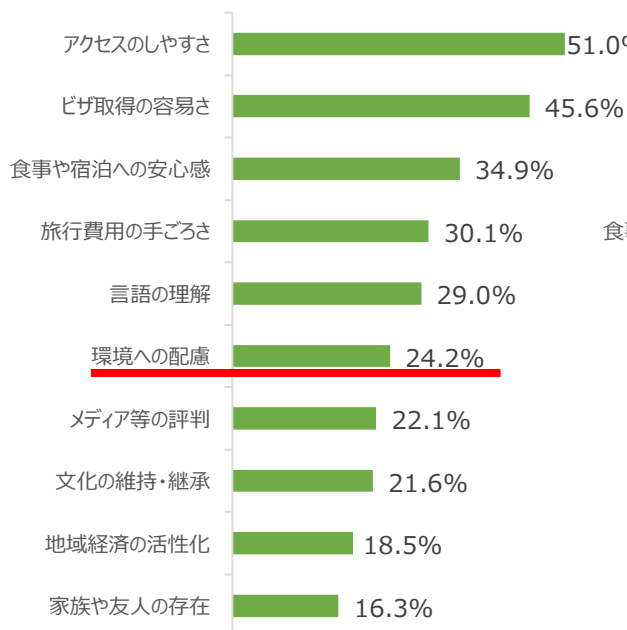
階層	海外の取組（仏独伊加NZ）	日本の取組	海外と比較した日本の特徴 特徴的取組/課題
国	サステナブル ツーリズム政策	- 観光産業の収益向上（宿泊・観光施設の改修支援・DX推進） 地域の観光資源の保全と観光の両立	✓ 収益向上、地方に注力 ✓ 国家としてサステナブルツーリズム目的地としてのブランド構築方針が希薄（各観光地、利用拠点で実施）
	高付加価値 旅行者誘致	- 高付加価値旅行者を対象としたマーケティング活動、プロモーションの実施 地方への誘客を重点的に促進 - モデル観光地での経営体制整備、人材支援、海外セールス強化、受入環境整備を推進	✓ 地方への誘致に注力
国立公園	- 駐車場利用制限、宿泊者数制限 - 国立公園としてのブランディング コンテンツ開発・企画の実施 - 研修・指導	ガイド育成・研修の実施 情報発信の強化 - 観光ルート、コンテンツ開発 ※協議会による取組が中心	✓ 公園管理者だけでなく協議会で取組を推進 ✓ ガイド育成、情報発信への課題認識
利用拠点	公共交通利用推進、シャトルバス運行 ソフトモビリティの推進 - 遊歩道や公園内施設の改修、情報看板の設置等の施設整備	- ガイド育成・研修の実施 コンテンツ開発、体験の提供 温泉熱・廃水を活用した発電、道路整備	✓ コンテンツ開発の主体 ✓ 日本の固有資産である温泉を活用した取組 ✓ モビリティ関連の取組が比較的希薄
宿泊施設	サステナビリティ関連認証取得 - 地域産品の使用 - 廃棄物管理、水・エネルギー使用量の削減等	- 地産地消 ペットボトル水平リサイクル等による廃棄物削減	✓ ペットボトル水平リサイクル等のリサイクルによる廃棄物削減が進展 ✓ 認証制度が少なく、多くの地域で取組実施状況が不明瞭

5.2 サステナブルツーリズムに関する動向

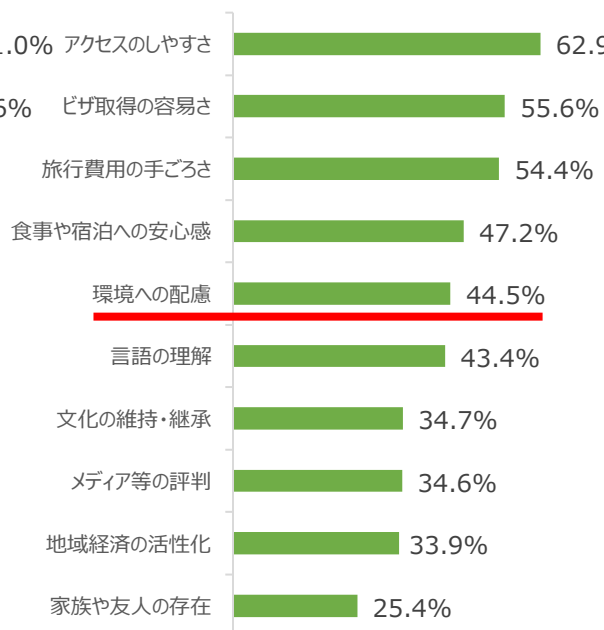
- 2023年初頭にかけてJNTOが実施した、「国外旅行先での旅行者のサステナビリティに係る行動傾向」調査では、**環境への配慮**も重要な要素となっており、国立公園においても今後の取り組みが必要と考えられる

国外旅行先を選ぶ際に重視するもの（「とても重視」の回答率）

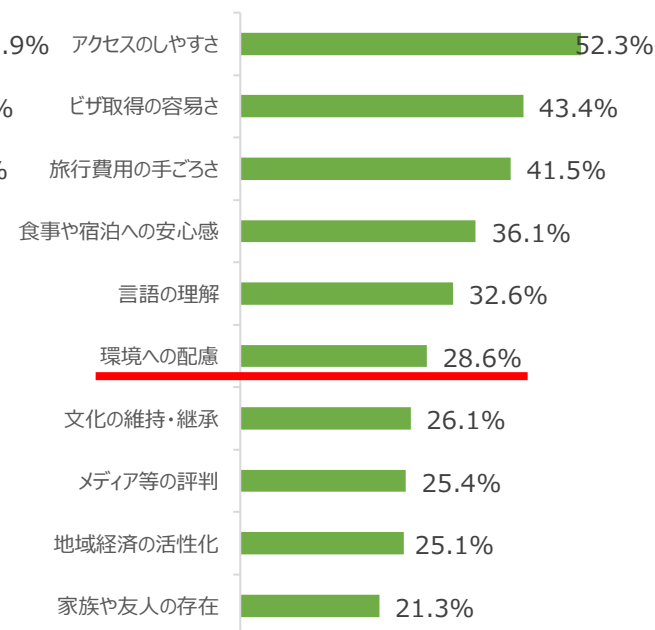
東アジア地域



東南アジア地域



欧米豪・インド・中東地域



※東アジア・東南アジア地域の調査対象は、2017年～2023年調査時点における飛行機を利用したレジャー目的の国外旅行経験者。

欧米豪・インド・中東地域の調査対象は、2017年（メキシコおよび中東地域は2015年）～2023年調査時点における飛行機を利用したレジャー目的の中長距離国外旅行経験者。

5.3 アドベンチャーツーリズムに関する動向

- 昨年9月に北海道で開催されたATWSでは、世界約60か国から773名の関係者が参加
- 参加関係者を対象に、北海道内の国立公園にてATツアー体験を実施
- ATガイド人材の不足が課題として挙げられたが、北海道では独自のATガイド認定制度を昨年7月に創設

ATWSでのATツアー

- ATWSに参加した旅行会社、メディア、アウトドアメーカー、観光協会などの関係者を対象に、北海道内の国立公園にてATツアー体験を実施

国立公園

ATツアーに参加者した関係者の反応

利尻礼文サロベツ国立公園

- 「火山活動でできた利尻山は美しく、島の風景に感動した。北防波堤ドームでの夕食も最高。時間が足りない」(写真家、米)

知床国立公園・阿寒摩周国立公園・釧路湿原国立公園

- 阿寒湖温泉で鑑賞したアイヌ文化とコンピューターグラフィックスを組み合わせたパフォーマンスや、活火山の岩肌を登る硫黄山登山が「インパクトがあった」(ライター、豪)
- 「公共交通が充実しているとは言えず、個人旅行者の交通手段の確保が課題」(同上)
- 「レンタカーに関する英語の案内が少ない」(同上)
- 「釧路地域は世界的にまだ知られていないが、火山や美しい湖、アイヌ民族の伝統文化と高いポテンシャルを秘めている」(YouTuber、加)
- 「面白いコンテンツがそろっているが、英語の情報が少ない。世界への情報発信に力を入れるべき」(同上)

大雪山国立公園

- 「大雪山系の自然が素晴らしい。また訪れたい」(旅行会社、加)

支笏洞爺国立公園

- 「支笏湖は美しく、特別だった。千歳はポテンシャルがある」(旅行代理店)
- 「公共交通の案内など外国人客にわかりやすい表示があればもっといい」(同上)

ATWSで挙げられた課題

- アクティビティで危機管理を担える人材が不足
- エンターテインメントとして英語でストーリーを語れる人材が不足
- 悪天候を想定した代替案が必要 等
⇒ガイドの不足が指摘される

ガイド不足対応事例：

北海道「アドベンチャートラベルガイド認定等制度」

目的

欧米からのアドベンチャートラベラー受入態勢の整備

創設

北海道知事による認定制度として2023年7月創設

認定分野

- アクティビティガイド：山岳等の9専門分野を指定
- スルーガイド：アドベンチャートラベラーと共に動きながら案内・調整等を実施

メリット

- 国際的に評価されるガイドとして技能向上を図るための研修等を受講可能
- 道が積極的に認定ガイドのPRを実施

研修内容

- ATTAガイド基準Adventure Travel Guide Standards (ATGS)を踏まえ、ATGS中核的能力と外国語の研修を提供
- ATGS中核的能力：持続可能性、技術的能力とファーストエイド、安全・危機管理、顧客サービスとグループマネジメント、自然・歴史・文化の解説